

石川高専 だより

National Institute
of Technology (KOSEN),
Ishikawa College

No.109
2026/03



CONTENTS

- 01 校長メッセージ
- 02 2年生学外見学 / 3年生合宿研修 / 4年生海外研修
- 07 全国高専コンテスト
(ロボコン / デザコン / プロコン / プレコン)
- 11 文芸コンクール / オンリー1プロジェクト
- 12 紀友祭
- 13 高専体育大会 (北陸地区大会・全国大会)
- 15 体験入学 / オープンカレッジ
- 17 入学説明会

- 18 学生会
- 19 有朋寮
- 21 学科・専攻科だより
- 27 専攻科長期インターンシップ
- 28 トライアル研究センターだより
- 29 技術振興交流会 / 企業技術説明会
- 31 国際交流だより
- 32 同窓会だより
- 33 NEWS & TOPICS

石川高専で自身の可能性を拓けよう ～春号に寄せて

石川工業高等専門学校長 富田 大志

本校は、昭和40年（1965年）に国立の高専として石川県の中心に位置する津幡町に設立されて以来、2025年で創立60周年を迎えました。これまで約9600人の学生を送り出し、卒業生たちは国内外の様々な分野で活躍しています。最近の就職状況においては、高専生の人気はますます高まっており、求人率は20倍から30倍となっています。昨年新聞記事では、企業の採用担当者の「高専出身者は学び続ける姿勢が強い」とのコメントが掲載されており、高専時代に基礎をたたきこまれているから新技術への適応も抵抗なくこなせると評価されていました。

高専は、中学を卒業し入学してからの5年間で、高校から大学の7年間に匹敵する学びを提供します。大学に引けを取らない優秀な先生だけでなく、地元石川県の企業や自治体が学生たちの様々な活動を支えています。本校の充実した環境の下で、じっくりと自身の可能性を育てていることが、企業からの高い評価につながっていると考えています。

学生たちは学業に励むだけでなく、様々な体験を通じて成長しています。課外活動では、今年度も変わらず活躍してくれました。高専体育大会の北陸地区大会では19連覇を達成し、全国大会でもサッカー、ソフトテニス、陸上、柔道、バドミントンなどが輝かしい成績を収めました。コンテスト関係では、プロコン、デザコン、プレコンで厳しい地区予選を突破し、全国大会に進みました。プロコンでは特別賞、デザコンでは企業賞、プレコンは3位と、それぞれ入賞しています。ロボコンは、残念ながら地区大会を通過することはできませんでしたが、斬新なアイデアで会場を沸かせ、特別賞を受賞しました。紀友祭は、今年も体育館が使えず屋外ステージをメインとする中、突然の豪雨などのアクシデントにも臨機応変に対応し、フィナーレの花火まで見事にやりました。学生たちの真摯に取り組んでいる姿に感銘を受けました。

2025年度は心が痛む出来事も多くありましたが、津幡町出身の大のりの横綱昇進や、大谷の3年連続・4回目のMVPなど、うれしいニュースもありました。中でも日本人科学者2名のノーベル賞受賞は、日本の科学技術力を世界に示しました。坂口先生による制御性T細胞の研究はがん治療に、北川先生の金属有機構造体の研究は環境問題の解決等に貢献すると期待されており、今後実用化に向けて多くの力が注がれていくことになります。その過程では本校の卒業生たちが直接携わる可能性も高いと考えています。今後の創薬にはAIの活用が欠かせませんし、環境問題は本校の5学科すべてに深く関係しています。

科学技術の進歩のスピードに対応していくのは大変ですが、石川高専で学ぶ基本的なものづくり技術や高い専門知識、基礎的な教養は、急速に変化する社会において最大の武器となります。これからは学生たちが、本校での様々な経験を通じて、自身の可能性を拓け、それぞれの夢を持ち続け活躍していくことを期待しています。





2年生 学外見学



2年学年主任 富山 正人

コロナ禍で中止になったり、行き先を石川県内に変更したりしていた本科2年生学外見学ですが、2022年度より恒例の飛騨高山（高山市）と白川郷荻町合掌集落（大野郡白川村）に行くことができました。今年度も10月2日（木）に飛騨高山と白川郷に行ってきました。過去には天候が悪かったり、寒かったりしたこともありましたが、今年度は晴天に恵まれ、日差しが強く夏のような気候となったため、散策中は詰襟やブレザーを着用せずにカッターシャツやブラウスで行動する学生がほとんどでした。学校出発時や現地出発時の集合時間に遅れる学生はおらず、バスは予定時間通りに出発でき、また、トラブルもなく無事に実施することができました。



学生へは、事前準備として飛騨高山の紹介動画や白川郷の合掌造り集落の動画などを見ておくこと、また、見てまわりたい場所などを事前に調べておき、当日は計画的に行動できるように準備しておくことを指導しました。また、当日の目標・目的として、「日本の伝統文化と歴史に触れ、教養を深める」、「各施設・町並み等が、周辺の地域社会・国際社会・自然環境とどのような関係を構築・創造しているかを理解する」、「自由行動の計画的遂行と適切な態度（服装・言動）を実践する」の3つを設定し、目標・目的を達成したことを説明する写真と文章をFormsで提出することを課題としました。



それらを見ると、1つ目の目標は、寺院や神社の見学で、高山での組紐作り体験、高山祭屋台会館、高山陣屋や飛騨高山まちの博物館の見学で、また、白川郷での和田家住宅をはじめとする合掌造り住宅の見学などで達成していました。2つ目の目標は、高山の古い街並みの散策をする中で、建物を茶色などの古い色彩にすることや電線をなくすことなどで歴史的な風景を守っていることに気づき、白川郷の散策をする中で、休憩所やトイレも合掌造りの形で建てられていることや火事が起こると大変なので放水銃がたくさん設置されていることに気づくなどで達成していました。最後の目標も、事前に友人たちとどのように散策するかを検討したり、AIを活用して散策ルートを作成するなど達成していました。



通常の観光客のように、白川郷の展望台からの眺めに感動したり、高山の朝市の散策を楽しんだり、お土産屋での特産品の購入、飛騨牛まんや五平餅などの買い食いを楽しんだりもしていましたが、高専の学生らしく、からくり屋台のからくり技術に驚いたり、白川郷でのあい橋や合掌造りの構造に興味を持ったりもしていました。円安の影響かインバウンドで外国人旅行者もたくさん訪れており、英語で話しかけられたがどうにか答えた、積極的に英語で話しかけたなど、国際交流もしていました。学外での学年単位の行事は1年生の合宿研修以来で、久しぶりに学科を超えての交流もでき、充実した学外見学となりました。





機械工学科 Mechanical Engineering

担任／長谷川 雅人

機械工学科3年生は10月2日（木）、3日（金）の日程で関西方面で合宿研修を行いました。

1日目の見学先である大阪・関西万博会場は、閉幕間近ということもあり入場者が10万人超という混雑ぶりで、ミャクミャク前での集合写真撮影に苦勞し、またその後の自由行動中は学生の姿を見かけるのも稀でした。それでも皆、何処かしらの施設に入館でき、最先端の技術や諸外国の文化に触れて楽しめたようです。

2日目には、株式会社GSユアサの栗東事業所を訪問し、蓄電池に関する説明を受けた後、製造工程の一部を見学しました。機械の学生にとって蓄電池そのものはなじみが薄いものの、製造工程の精密さ、品質管理の厳しさなど、高度なものづくりの実際を体感することが出来たようです。また、高専出身の若手社員の方々から、高専での学びの大切さ、職場の雰囲気、高専出身者の待遇などいろいろとお話を聞くことができ、各自の将来に向けて考えはじめる良い機会になったことと思います。



大阪・関西万博会場にて



高専出身の社員と



GS ユアサでの集合写真



電気工学科 Electrical Engineering

担任／仲林 裕司

3年電気工学科の研修旅行は、1日目に京セラ株式会社 滋賀野洲工場の工場見学、2日目に国立研究開発法人 産業技術総合研究所（産総研）関西センターで蓄電池の製作実習を行いました。

初日の工場見学では、人工関節の製造工程を見学し、電気工学の知識が現場でどう活かされているのかを社員の方から説明していただきました。OB交流会では、高専で学んだ知識が仕事にどう役立つのかを説明していただきました。見学を通じて、学生は自身の将来を考える良いきっかけとなりました。

2日目は、産総研でリチウムイオン蓄電池の製作実習を行いました。蓄電池製造は、再生可能エネルギーの利用には欠かせない重要な技術のひとつです。実習前には、直前に事前学習を行い予備知識を深めました。実習では、電気工学の専門知識に加えて物理的、化学的な知識が必要ですが、学生は座学の知識を確認しながら熱心に取り組んでいました。

今回の研修旅行では、普段では目にすることができない製造工程の見学や実習を行い、高専生らしい有意義な2日間を過ごすことができました。



工場見学において全体説明を受けている学生の様子



蓄電池の製作実習において全体説明を受けている学生の様子



蓄電池の製作実習中における学生の様子



電子情報工学科 Electronics and Information Engineering

担任／三吉 建尊

電子情報工学科3年生は、10月2日（木）・3日（金）の2日間の日程で大阪方面にて研修を実施しました。

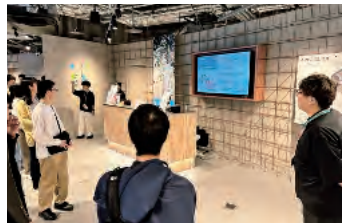
1日目は大阪・関西万博の見学を実施しました。閉幕が近づいていることもあり、非常に多くの方々が見学されており、教員は歩くだけでも大変でしたが、学生たちは若さもあり、複数のパビリオンを積極的に見学し、最新技術や海外の文化について学ぶことができました。

2日目はさくらインターネット本社を訪問し、会社説明とデータセンター見学を実施しました。IT系企業特有のフレキシブルな働き方を学んだり、データセンターという非常に機密性の高い施設を見学したりするという特別な機会となりました。サーバ用のラックや工夫された配線などの設備について興味深く見学し、積極的に社員の方に質問している姿が印象的でした。

両日とも、学生が非常に楽しく積極的に研修に参加している姿が印象的でした。残り2年間も、引き続き楽しく充実した高専生活を送ってほしいと思います。



万博会場における集合写真



さくらインターネット見学の様子



さくらインターネット本社における集合写真



環境都市工学科 Civil Engineering

担任／高野 典礼

10月2日 日本での万博開催は稀であり、世界の文化や人々と直接触れ合える機会はそう多くありません。その貴重な体験を求めて大阪万博を訪れました。

パビリオンの予約から現地での飲食まで、スマホを介したやり取りが中心で、効率化重視の偏重が見えなくもありませんが、実社会でも活用はしていることだけに、学生にとっては造作もないことだったようです。

一方で、予約が取れず所在なく歩き回る姿もありましたが、友人と歩くだけでも楽しいのが学生。多くの異文化に触れながら過ごしていました。夜のドローンショーまで長時間の滞在となりましたが、良い思い出になってくれることを願います。



万博ドローンショー

10月3日 京都府加茂浄化センターを見学しました。ここは下水道の終末施設で、生活排水などを浄化し、川や海など公共水域へ放流する役割を担っています。

この施設の更新工事は、世界的な水処理企業であるフランスのVEOLIAグループ傘下、株式会社西原環境が請け負いました。こちらに勤める卒業生と本社からも説明担当者が応援に来てくださり、施設内を巡りながら詳細な説明を受け、働くことに関する助言もいただきました。

学生には「一人一つ質問」を課していたため、熱心に耳を傾ける姿が印象的でした。



加茂浄化センター背景に集合写真



建築学科 Architecture

担任／大和 裕也

建築学科は1泊2日で大阪、京都、福井にて合宿研修を実施しました。

1日目は、当日来場者数20万人越えの大阪・関西万博を視察し、国内外の最新パビリオンや大規模イベント空間の運営について体験的に学びました。パビリオンのデザインや飲食店を考慮した動線計画など、将来の建築・都市計画に直結する知見を数多く得る機会となりました。

2日目は大阪から京都に移動し、京都大学の稲盛財団記念館の会議室で総合研究棟新設の工事概要の説明を受けた後、工事現場を見学しました。次に福井まで移動し、敦賀市清掃センターの現場見学を行いました。2つの現場見学では、図面や工事工程などを確認しながら、空間構成の考え方や建設プロセスの理解を深めました。その後、敦賀駅周辺の再開発エリアを視察しました。

今回の研修を通じ、学生たちは建築を学ぶ者としての姿勢や、公共空間を支える専門職の責任を改めて実感することができました。得られた経験は、今後の学習や卒業研究、さらには将来の進路選択に役立てることができると考えられます。



大阪・関西万博



京都大学総合研究棟新設現場



敦賀市清掃センター



4年生 海外研修



機械工学科 Mechanical Engineering

担任／池田 生馬

機械工学科4年生は3泊4日（9/22～9/25、4日目は移動日）で台湾にて海外研修を実施しました。ほとんど全ての学生が初・海外ということで事前の準備から色々戸惑うことはあったようですが、全員で往復できました。内容について、初日は、九份へ移動して台湾の伝統文化に触れました（後日話を聞くと景色はキレイだったけど伝統的な食事には多少クセがあったようです）。2日目は、午前には博物館などへ行き、午後は現地の大学生とともに台北を見て回りました。3日目は、台湾の新幹線で台中へ移動し、FEELERという現地企業の見学をしました。この企業は高松機械工業の関連会社で、主に工作機械を製造しています。日本と同じように機械を作っている会社とはいえ、海外での考え方や働き方の違いなどを直に感じられたことと思います。以上、今回の海外研修の報告です。この研修での様々な経験が今後の進路選択などで役に立ってくれると思います。最後に、普段から支えてくださっているみなさまのおかげで無事に海外研修を行えました。感謝申し上げます。



FEELER 社見学の様子



食事風景



中正紀念堂で記念撮影



電気工学科 Electrical Engineering

担任／上町 俊幸

電気工学科4年生は、9月24日（水）～27日（土）の日程で、台湾へ行きました。初日は、台湾の桃園空港に到着したあと、バスで九份に向かいました。赤い提灯が並ぶ昔ながらの街並みを散策し、海外の雰囲気十分に味わいました。

2日目の午前中は、明新科技大学を訪問し、学生交流と半導体設備の見学をしました。学生交流では、お互いの学校紹介のあと、グループに分かれて交流し、現地の大学生と楽しく時間を過ごしました。午後は、飲料メーカー黒松股份有限公司の工場見学をしました。

3日目の午前には、忠烈祠衛兵交代式や故宮博物院を見学し、台湾の文化に触れることができました。午後はフリータイムで、台北市内を自由に散策しました。ほとんどの学生にとって初めての海外旅行でしたが、自分たちで台北MRTに乗って移動し、観光名所を訪れたり、食事やショッピングをしたりして、とても良い経験ができたと思います。今回の海外研修旅行が、海外に目を向けるきっかけとなることを願うとともに、お世話になりました関係者の皆様に感謝申し上げます。



明新科技大学での学生交流



黒松股份有限公司の見学



故宮博物院の見学



電子情報工学科 Electronics and Information Engineering

担任／任田 崇吾

電子情報工学科4年生は、9月28日（日）から10月1日（水）の3泊4日で台湾・台北に行きました。今回は事前研修として、7月15日（火）に昨年度の海外研修で訪問した台湾の嘉義大学の蘇先生に來校いただき、STEAM教育に関する授業をしていただきました。1日目は、小松空港から桃園国際空港へ移動し、龍山寺と士林夜市を観光しました。2日目は、B&Sプログラムとして、グループに分かれて、現地学生と英語でコミュニケーションをとりながら台北市内を見学しました。3日目は、国立台湾科学教育館で半導体をはじめとした科学技術について学び、十分および九份で台湾の文化について体験しました。最終日は、早朝のホテル出発となりましたが、全員無事に帰国することができました。今回の研修が初めての海外という学生も多く、英語やコミュニケーション能力の大切さを学ぶ良い機会になったかと思います。海外研修でご支援いただいた関係者各位に感謝申し上げます。



国立台湾科学教育館



事前研修（嘉義大学・蘇先生）



忠烈祠



環境都市工学科 Civil Engineering

担任／前田 健児

4年環境都市工学科では、9月23日から3泊4日の日程で台湾への4年生海外研修を実施し、学生41名が参加しました。本研修は、環境都市工学の役割を多角的・国際的な視点で捉え、将来国際社会で活躍する技術者としての素養を培うことを目的としています。

主な行程として、台湾新幹線を利用して嘉義市へ移動し、国立嘉義大学との学校間交流を行いました。また、石川県出身の土木技師・八田與一氏が建設した烏山頭ダムを見学し、先人の偉大な功績と土木構造物の重要性を再認識する機会となりました。

初日は台風の影響によるフライト遅延やスケジュールの急遽変更などのハプニングもありましたが、3日目には九份を訪れることができました。学生アンケートでは九份視察が満点の満足度を記録し、夜市散策や現地グルメなど異文化も存分に楽しんだ様子が伺えます。

嘉義大学での交流や台湾のインフラに触れた経験は、学生たちにとって技術者としての視野を広げる貴重な機会となりました。この経験が、将来国内外で活躍する第一歩となることを願っています。



高鐵嘉義駅にて集合写真



嘉義大学の学生たちとの集合写真



土木技師・八田與一氏の墓前にて集合写真



建築学科 Architecture

担任／秦 明日香

建築学科4年生は、9月25日（木）～28日（日）の3泊4日で、台湾（台北・台中）へ行きました。初日は台北近郊の九份観光で台湾の雰囲気を感じ、2日目は台湾大学との交流と台北市内の建築見学、3日目は新幹線で1時間の距離にある台中市内で観光や建築見学を行いました。大学交流は、英語でのコミュニケーションを基本とし、台湾大学の学生から大学紹介や研究内容の発表を受けて質問をしたり、自分の設計案や研究室活動を発表し質問に答えたりと、貴重な国際交流の体験となりました。台北市内では、台湾で働く日本の建設会社の方に、建物の施工の解説や、海外で働くことについて話をきくことができ、建築だけでなく進路についても考える機会となりました。台中での建築見学では、歴史的なものから現代のものまで、日本とは違う台湾の建物をみることで良い刺激になったようです。

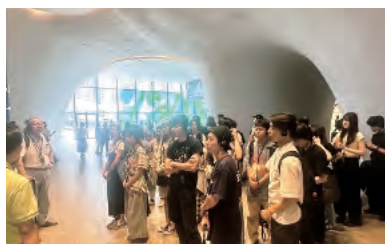
今回の経験が学生の国際的な活躍のきっかけになることを願うとともに、このような充実した海外研修ができたことを関係各位に感謝申し上げます。



台湾大学での集合写真



陶朱恩園（台北）での建物見学の様子



嘉義台中国家歌劇院（台中）での建築見学の様子



霧峰林家宮保第園区での集合写真



ROBOCON

高専ロボコン2025を終えて

指導教員／嶋田 直樹（電子情報工学科）



Aチームの奮闘

今年度の競技テーマは『Great High Gate』、様々な形状のダンボール箱を高く積んでゲートを作り、ロボットが人を乗せた台車をひいてくぐりぬけるという、シンプルながらも大変奥の深い競技でした。



Bチームの奮闘

石川高専ロボット研究部からは、3年生を中心としたメンバー2チームが出場しましたが、地区大会では思ったような結果を残すことができませんでした。今年度も多くの方がロボコンの活動に協力

してくださり、また応援していただきました。この場を借りて、深く感謝申し上げます。

さて、ここからは今年度の活動を振り返っていきたいと思います。

今年度は、一昨年度、昨年度と続き、3年連続の全国大会を目指して、部員たちの気合も十分にシーズンが始まりました。A、Bの両チームとも、中心メンバーは3年生と2年生で構成され、全国大会も経験した4年生たちが活動を支えてくれました。新しく入った1年生も、加工や組み立てなどの作業を少しずつ覚えながら、積極的に参加してくれました。

例年、練習場所として使っていた体育館も使用できず、また高さが足りないために教室で機構の動作テストをすることも容易でない厳しい環境の中、皆本当によく頑張ってくれたと思います。

今年度の競技では、自フィールドで占有できる占有ボックスと、相手フィールドとの境界線に置かれ

た共有ボックスの2種類が用意され、石川A、Bの両チームは、いずれも占有ボックスのみでゲートを構築する方針でロボットを開発しました。これは、ゲートを作る際に有利な横長形状の大きなボックスなどを相手チームと取り合いになるよりも、比較的小さなボックスでも、毎試合確実に使うことのできる自フィールドの占有ボックスのみで構築できるようにすることで、安定して勝利することを狙ったものでした。

シーズン序盤は、色々なゲートの組み方について研究を行い、両チームとも占有ボックスのみで構築可能なゲートの形を見つけることができました。その過程で、ゲート構築には想像以上の時間がかかることも分かり、時間短縮が可能な構築方法についても検討を重ねました。その結果、Aチームはゲートを二分割して運んでゲートを構築した後、台車を牽引しながらゲートを周回することで安定した得点ができる戦略、Bチームはスタート時にあらかじめ箱を積んでおいたゲートをそのまま運び、設置してから中から左右に広げて構築するというダイナミックな戦略でロボットを開発しました。

結果としては思い描いていたようなパフォーマンスを披露することは叶いませんでしたが、勝つためのアイデアを考えるために真剣に取り組み、変形しやすいダンボール箱を積み上げた状態で運ぶという難題に最後まで諦めずに挑戦した経験は、きっと来年度以降の活動に活かされていくと思います。

今年度の悔しさをバネにして来年度こそは再び全国大会で活躍を見せられるようにロボット研究部一同頑張りますので、引き続き応援よろしくお願いたします。



ゲート通過を目指して（Aチーム）



特別賞（安川電機）受賞（Bチーム）



DESIGN COMPETITION

第22回全国高専デザコン2025 「創造デザイン部門」「空間デザイン部門」で3つの受賞！

指導教員／内田 伸、道地 慶子、森原 崇、大和 裕也、船戸 慶輔、小川 福嗣（建築学科）

令和7年11月8日（土）、9日（日）の日程で「第22回全国高等専門学校デザインコンペティション福井大会」（通称 でぞこん2025 in ふくい）が、鯖江市の「嚮陽会館」および「まなべの館」において開催されました。今年のテーマは「織りなす」。全5部門からなる大会で、石川高専からは、学内予選を経た構造デザイン部門に2



空間デザイン部門

チーム、創造デザイン部門の2チームおよび空間デザイン部門の2チームが厳しい予選審査を通過し参加しました。

創造デザイン部門

は、「未来につなげる脱炭素な社会」をテーマに提案が求められました。1日目に3分間のポスターセッションと各チームとのワークショップ、2日目には7分間のプレゼンテーションを行い、公開審査の結果、作品名：SEEDUSTRY PROJECT、4A河合さん、掃部さん、千葉さん（3名共同）は、日本オーチス・エレベータ賞を、作品名：のとファブリケーション、4A木内さん、清丸さん、マークさん（3名共同）は審査員特別賞を受賞しました。（いずれも指導教員：建築学科・准教授・森原崇、同・大和裕也）

「SEEDUSTRY PROJECT」は、高岡市に多くある伝統産業に関わる企業から排出される産業汚泥に着目しました。通常は廃棄物となる汚泥を資源に転換できるように、その特性を生かしたシードボールを生成することで、地域の緑化を図り、脱炭素を目指そうと提案しています。地元産業が抱える課題に着目した点、教育や国際展開まで視野をもった提案であったことが評価されました。また「のとファブリケーション」は、能登にある仮設住宅の将来と脱炭素を組み合わせ考えて提案です。森と人里の中間領域で活用する視点や、利活用する際のプレハブの素材として能登の間伐材を使うことの意義や有効性など、



創造デザイン部門

単に仮設住宅を利用するだけではない幅広い視点を持った作品となった点が評価されました。

空間デザイン部門は、「織りまざる住まい」をテーマに、複数の人たちが空間を共有し、多様性の観点からライフスタイルや文化が違う人たちが助け合いながら一緒に集まり過ごしている空間提案が求められました。1日目に5分間のポスターセッションと質疑応答、2日目には6分間のプレゼンテーションを行い、公開審査の結果、企業賞（三菱地所コミュニティ賞）を受賞しました。受賞作品「すれ違いの共生」（3A上野さん、指導教員：建築学科・准教授・内田伸、教授・道地慶子）は、上野さんが前期設計課題で取り組んだ計画案をブラッシュアップした応募作品で、集合住宅とホテルの複合ビルを計画しています。ユニークな空間、仕上げ材のイメージ、視覚的・体感的すれ違いの効果が具体的に提案されている点が評価されました。



構造デザイン部門

構造デザイン部門では、「stylish」をテーマとして、紙を利用して軽くて強い構造デザインに優れた橋づくりの技術を競いました。2チーム参加し、静的載荷試験ではそれぞれ30kg、60kgの載荷に耐えることができました。軽量点や審査員評価点、静的載荷試験時の設置時間なども総合して最終評価が行われますが、残念ながら入賞となりませんでした。

次年度の第23回デザコンin北海道は、2026年11月7日（土）8日（日）と北海道函館市で開催予定です。

集合写真



集合写真

高専プロコン特別賞受賞・国際大会出場権獲得

指導教員／越野 亮（電子情報工学科）

10月11日～12日に島根県松江市で開催された「第36回全国高等専門学校プログラミングコンテスト」において、競技部門に出場し、特別賞（全国6位）を受賞しました。加えて、2026年3月7日～10日にベトナム・ハノイで開催される国際大会の出場権も獲得しました。

チームメンバー（チーム名：4.33i）

電子情報工学科

5年 置田裕也、松元颯矢 3年 南伸樹

競技説明

競技部門「エ。一縁結びの誘導について」は、偶数サイズの正方形フィールド上に配置された整数値（エンティティ）を操作し、同じ数値を持つ2つのエンティティを縦または横に隣接させた「ペア」をいかに多く作れるかを競うパズルゲーム形式の競技です。

競技者は、フィールド内の任意の正方形領域（これを「園」と呼び、サイズは2×2以上）を選択し、その領域全体を右に90度回転させる「導き」という操作を繰り返すことで整数値（エンティティ）を移動させますが、この操作回数が少ないほど高評価となるため効率的な探索が求められます。

試合はネットワークを利用して行われ、開始と同時に

JSON形式で配布される盤面データ（フィールドサイズ4×4～24×24）に対し、競技者は制限時間（5分程度）内に最大30回まで回答（操作手順のリスト）を送信することができ、最終的な勝敗は「確立したペア数の多さ」「操作手数の少なさ」「最終回答時間の早さ」の優先順位で決定されます。

学生たちの声

松元 (5I)

当日はダブルチェック等の入念な確認を行い、通信トラブルの発生を回避しました。加えて、多数の企業ブースを訪問し、社員の方々と交流を通じて多大な刺激を得ることができました。

置田 (5I)

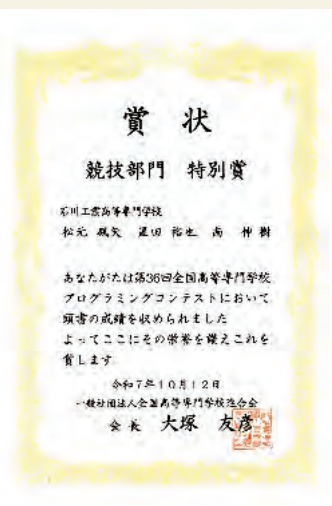
個人的にはもっと頑張れたと思う部分が多くありました。しかし、そのような中でも特別賞を受賞できたことは嬉しく思います。

南 (3I)

他の高専がどの程度の手数で揃えられるかは本番まで分からないため、手数の削減が終わらないところが難しかったです。プログラム内容も普段する競技プログラミングとは全然違う処理も行っているのが面白さを感じました。アイディアを詰めていき、手数が少なくなっていくのを見ると、とても成長を感じられ嬉しかったです。



出場メンバー



賞状



盾

チーム部門全国3位！シングル部門東海北陸地区3位！

指導教員／香本 直子、鬼頭 美帆、MOANANU Charlton Bill（一般教育科）

第19回 全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト

■1月24日（土）、25日（日） ■国立オリンピック記念青少年総合センター（東京）

チーム部門 選手 2EM 夏嶋、5I 太島、長谷川 タイトル “KasaTalk: Making Rainy Days Fun”

チーム部門では、夏嶋さん、長谷川さん、太島さんが昨年度に引き続き学年を超えて一つになり発表を行いました。Kasa Talkと名付けられた手のひらサイズの小さなコミュニケーションロボットが、子供たちを励まし、楽しい話題で話しかけ、憂鬱な雨の日の登校を楽しくするというユニークな発表でした。自らの研究や開発のプロセスをわかりやすい言葉で伝え、未来の私たちの生活がロボットとのコミュニケーションによってどう変化していくかについて、息の合った3人のコミカルな掛け合いは面白く、かつ力強く聴衆に語り掛けていました。審査員の講評では、内容や発表力はもちろん、英語力についてもこれまでよりも高い評価を受け、繰り返し英語プレコンに参加をして練習を重ねていくことで着実に英語力や表現力を高めていったのを感じることができました。

今年度も多方面で教職員、同窓会の皆様にご支援いただきありがとうございました。



学生たちの声

夏嶋（2EM）

3回目のプレコン参加となりました。回を重ねるごとに審査員からの評価が良くなり、英語力の向上を実感できました。前日に体調を崩した時はどうなることかと思いましたが、無事に本番を迎え、賞を頂くことができ嬉しかったです。ご指導くださった先生方、チームメンバーの長谷川さん、太島さん、そして応援してくださった皆様ありがとうございました。

太島（5I）

昨年度と同様に3位という結果でしたが、自分たちにとっては最高の発表ができました。昨年度より審査員からの評価も良く、多くの先生方や学生の方々から「プレゼンが面白かった」と言ってもらえたことが大きな達成感につながりました。英語プレコンは英語力だけでなく、人前で意見を伝える力など多くを身につけられます。ぜひ挑戦してみてください。

長谷川（5I）

チーム部門3位という結果でした。昨年と同じ順位ですが、審査員からの評価の向上により成長を実感でき、とても嬉しかったです。心から楽しんで発表ができ、晴れやかな気持ちで卒業を迎えることができます。石川高専の後輩たちにも、ぜひこの英語プレコンに挑戦し、自分の世界を広げてほしいです。

第19回 東海北陸地区高等専門学校 英語プレゼンテーションコンテスト (全国高専英語プレコンシングル部門地区予選)

■11月8日（土）オンライン配信

シングル部門

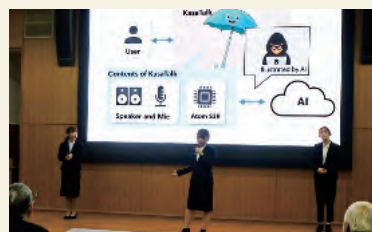
選手 3M 中川 タイトル “Infrastructure to Support Diversity”

選手 3E 吉田（心） タイトル “Practice English Output with AI”

惜しくも全国大会出場にはありませんでしたが、シングル部門では中川さんと吉田さんが発表を行いました。機械工学科に在籍する中川さんは、「学校に十分な女子トイレがない」という自身の経験から、マイノリティとして生きる人々の問題や悩みについて鋭い視点でスピーチを展開していました。また、吉田さんは「なぜ私たちは英語を話せないのか」という身近な疑問について、考えられる理由やそれに対する有効な解決策を高専生の視点から語り、わかりやすく説得力のある彼女のスピーチは東海北陸地区英語プレコンで3位入賞を獲得しました。



チーム部門発表の様子



表彰式を終えて

第42回 文芸コンクール

図書館主催の文芸コンクールは、今年度(令和7年度)で第42回を迎えました。長年にわたり継続されてきた本コンクールは、本校学生の表現力や創造力に触れる貴重な機会となっています。今年度は作品募集ポスターを公募とする試みを実施し、審査の結果3作品を採用しました。いずれも完成度が高く、美しさと独創性を兼ね備えた作品であり、注目を集めるものとなりました。

コンクールへの応募作品については、私自身も審査に加わり、優秀賞3作品、佳作3作品を選出しました。なお、昨年度までは国語の夏休み課題からの応募が多数ありましたが、今年度はすべて学生が自主的に創作した作品でした。理系学生が多く在籍する本校においても、文学的に美しく、読む者に新たな視点を与える作品が多く寄せられたことは、大きな喜びです。

なお、受賞者に贈られる副賞については、従来の図書カードから大手オンラインギフトカードへと変更し、時代や学生の利用形態に即した形としました。

今後も図書館は、学生の多様な表現活動を支える場として、文芸コンクールを大切に育てていきたいと考えています。

(図書館長・長岡健一)



令和7年度第42回文芸コンクール表彰式

受賞作品

受賞名	学年学科	名前	タイトル
最優秀賞	該当なし		
優秀賞	5M	ジン ユー	日本での新生活:初めまして?久しぶり!
	2I	神村	悪人になるとき ギャル、祖母を食う
佳作	5E	田辺	二十歳
	3A	河原	「これからの建築と木」
	3A	西野	「これからの建築」

※敬称略、各賞の中はクラス順・氏名の五十音順

オンリー1プロジェクト

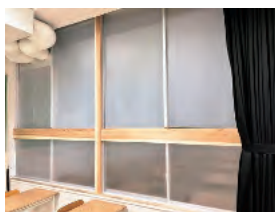
学生の持つ自主性、創造性を存分に発揮してもらおう支援事業です。チーム又は個人で企画書を提出し、採択されたテーマには、1件あたり10万円程度の援助を行っています。

令和7年度は、6件の応募があり、6件全てが採択され、令和7年12月18日(木)に最終報告会が開催されました。最終報告会では、代表学生によるポスター発表及び質疑応答により審査員の教員による評価が行われました。

【課題部門】

①教室の窓の2重サッシ化 (断熱化/建築棟2階教室)

単枚ガラスと熱伝導率の高いアルミサッシで構成された5A教室の窓を2重サッシ化し、断熱性能を高めることで室内空気環境を改善する。



教室の窓の2重サッシ化

③一塁側ブルペンへの屋根の設置

～屋根の取り付け～

雨天時に投球練習ができるようにするため、一塁側ブルペンに屋根を設置することを目的とする。令和6年度のオンリー1プロジェクトにおいて骨組みまで完成させている。今年度は屋根の取り付けを行い完成させる。



一塁側ブルペンへの屋根の設置

【自由部門】

①効率良く練習するための自動装填式 バッティングマシンの製作

ボールを自動装填するバッティングマシンを製作し、打ち込み量を増やす。



自動装填式
バッティングマシン

④寮住環境向上

～布団干しの制作～

寮内で布団・毛布の天日干しを行えるようにすること。



布団干しの制作

②どみとる(学生寮共用設備利用状況表示システム)の改善

過去に作成したシステム(学生寮共用設備利用状況管理システム)を海寮以外の寮棟でも使用できるように拡大する。

また、今後も設備のメンテナンスを継続できるようにシステムのマニュアルの作成なども行う。



学生寮共用設備利用状況表示システム

⑤テクノステップ周辺の 環境整備2025

テクノステップ周辺の景観向上のため継続的に活動を行う。



テクノステップ周辺の環境整備

第60回

紀友祭

2025

テーマ 「LOVE」

紀友祭実行委員会委員長 建築学科5年 棚田 幸之助

第60回紀友祭は、学生一人一人の「愛」が随所に感じられる文化祭となりました。今年の紀友祭のテーマは「LOVE」です。このテーマには、来場して下さる方々への感謝の気持ちに加え、仲間と協力して一つのもを創り上げる中で生まれる思いやりや支え合いの心を大切にしたい、という願いを込めました。準備期間から当日に至るまで、多くの学生がそれぞれの立場で役割を果たし、多くの場所で様々な形の愛を感じられるような紀友祭をつくり上げてくれたと感じています。

今年も去年に引き続き好評であった野外ステージを設置しての開催となりました。しかし当日は、二日間とも雷雨に見舞われ、スケジュールが大きく乱れるという想定外の事態に直面しました。屋外企画の中断や進行の変更など、実行委員会として難しい判断を迫られる場面が何度もありました。その中で、一部の学生から心無い言葉をかけられることもありました。実行委員一同は下を向くことなく、一丸となって対応にあたることができました。執行部を中心に、互いに声を掛け合い、状況を共有しながら最善の行動を考え続ける姿は、委員長として非常に心強く、誇らしいものでした。困難な状況だからこそ、仲間との絆や支え合う力の大切さを改めて実感することができました。

私自身、委員長を務めるにあたり、これまで紀友祭を支えてこられた先輩方の存在の大きさを強く感じてきました。実行委員としての活動面だけでなく、学生生活を共に過ごし、日常的に私のことを気にかけて、親身に世話をしてくださり、悩んだときには背中を押してくださった先輩方の姿があったからこそ、最後までやり切ることができたと思っています。委員長という大役を務めさせていただいたのも先輩方のおかげだと思います。多くのことを学ばせていただき、支えてくださった先輩方には感謝してもしきれません。今回の紀友祭を運営することが、少しでも恩返しとなっていれば幸いです。そして、その思いや姿勢を後輩たちへと引き継いでいくことが、今の私たちの役割だと感じています。今年の運営を通して、後輩たちが主体的に動き、紀友祭を支える姿を見ることができ、この想いは確かに次の世代へ伝わっていると実感しました。

紀友祭は、学生が主体となって創り上げる、石川高専ならではの文化祭です。第60回という節目の年に、このような経験を共有できたことに深く感謝しています。最後になりましたが、ご協賛いただいた企業の皆様、運営に携わっていただいた学校関係者の皆様、そして来場していただいた地域の皆様や保護者の皆様に心より御礼申し上げます。この紀友祭で生まれた愛と絆が、今後も大切に受け継がれていくことを願っています。

LOVE

LOVE

LOVE

第60回 高専体育大会

第60回

北陸地区 大会・ 全国大会

副校長（学生担当） 北田 耕司



陸上部

北陸地区大会

破竹の19連覇達成！

令和6年1月1日の震災から2年の月日が流れました。体育館、武道場、テニスコートがなくなり、練習環境が大きく変わってしまいました。多くの部活動が近隣の津幡町体育館、テニスコート、三谷小学校の体育館などを借りたり、他校との合同練習を増やしたりするなど、工夫をしながら練習を続けてきました。令和7年5月にテニスコート2面が改修され、7月に県道横に仮設体育館が建設されました。練習の頻度はかなり確保できるようになりましたが、それでも震災前の環境には程遠いものがあります。このような状況下ですが、今年も多くの部活動が高専体育大会で活躍を見せてくれました。



ソフトテニス部
男子団体

北陸地区大会

令和7年度第60回北陸地区高専体育大会は6月22日（日）～7月21日（月・祝）の期間に14種目が石川高専主管で開催されました（14種目中、陸上競技、柔道、バドミントン、サッカーが石川の担当種目）。

北陸地区大会は各競技種目が順位によって得点化され、男子競技と女子競技の合計得点により、男女総合優勝が決まります。男子団体競技は出場した13種目中4種目で優勝し35点を獲得（男子総合優勝）。女子団体競技は8種目中2種目で優勝し17点を獲得しました（女子総合2位）。本校の総合得点は52点、2位の福井高専、富山高専（射水）に9点差をつけて優勝となり、19連覇を達成しました。

団体戦の優勝競技はソフトテニス（男子・女子）、テニス（女子）、バドミントン（男子）、陸上競技（男子・女子）、バスケットボール（男子）、野球でした。これらの種目に加え、サッカー（地区2位）が全国大会に出場しました。



バドミントン部

【総合得点】

	石川高専	福井高専	国際高専	富山高専(射水)	富山高専(本郷)
男子競技 合計	35	29	2	21	25
女子競技 合計	17	14	0	22	13
総合得点 合計	52	43	2	43	38
総合順位	1	3	5	2	4

総合成績は、各競技種目の合計得点で決める。同点の場合は上位種目の多い学校を上位とする。各競技の得点は、参加校数を最高得点とし最下位を1点とする。また、陸上競技において、富山高専の本郷及び射水キャンパスが合同チームで参加した場合は、獲得した得点を折半し双方に加点する。一方のみが参加した場合は、当該キャンパスに全ての得点が入るものとする。

全国大会

サッカー部 悲願の全国制覇 柔道部 個人無差別級で優勝



サッカー部



ソフトテニス部
女子3位ペア



柔道部

全国大会

全国大会は九州沖縄地区の高専が主管となり、8月29日（金）～9月21日（日）、12月20日（土）～24日（水）の期間に13種目が開催されました。本校からは陸上競技、野球、バスケットボール（男子）、ソフトテニス（男子団体・個人、女子団体・個人）、テニス（女子団体・個人、男子個人）、バドミントン（男子団体・個人）、卓球（女子個人）、柔道（団体・個人）、水泳に出場しました。

サッカー部が創部以来初の準決勝進出を果たし、勢いそのままに優勝を成し遂げました。柔道では谷口剛輝（3E）さんが無差別級で優勝、女子100mハードルで中村はるか（2A）さんが優勝、また、ソフトテニスは男子団体で準優勝、陸上競技は女子総合で2位を収めました。

第60回全国高等専門学校体育大会入賞者

競技	成績	氏名	学年学科
サッカー	優勝		
陸上競技	女子総合 2位 (以下、種目別成績)		
	女子100mハードル 1位	中村 はるか	建築学科 2年
	女子やり投げ 2位	灰田 キラ	機械工学科 3年
	女子円盤投げ 2位	釣川 紗矢	建築学科 3年
	女子砲丸投げ 3位	喜多 晃子	建築学科 4年
柔道	無差別級 優勝	谷口 剛輝	電気工学科 3年
ソフトテニス	男子団体 準優勝	主将 大藏 修馬	環境都市工学科 2年
	女子ダブルス 3位	嶋田 彩希	環境都市工学科 5年
		吉田 琳	電気工学科 4年
バドミントン	男子ダブルス 3位	三井 健生 三井 洸生	電子情報工学科 2年 機械工学科 2年

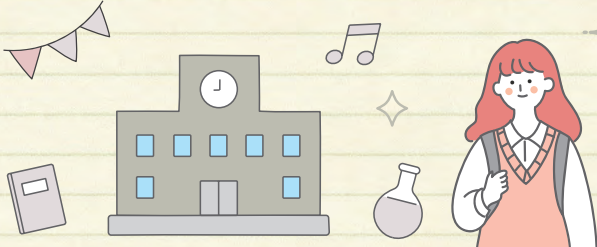
故富田充宏先生に捧げる サッカー部悲願の全国制覇

12月20日（土）～24日（水）宮崎県都城市で開催された第60回全国高等専門学校体育大会サッカー競技（兼 第58回全国高等専門学校サッカー選手権大会）において、サッカー部が悲願の全国制覇を成し遂げました。令和7年2月にご逝去された富田充宏先生も天国で喜んでおられると思います。富田先生は長年サッカー部の顧問としてご尽力頂いただけでなく、石川県サッカー協会にも貢献をされていました。奇しくも富田先生が他界されたその年に初の全国制覇が達成されました。

全国大会 戦いの軌跡

- 1 回 戦 (12/20) 対戦校：鹿児島工業高等専門学校 結果：2-1 (前半1-0、後半1-1)
- 準々決勝 (12/21) 対戦校：阿南工業高等専門学校 結果：2-1 (前半0-1、後半2-0)
- 準決勝 (12/23) 対戦校：呉工業高等専門学校 結果：0-0 (呉 2 PK 4 石川)
- 決 勝 (12/24) 対戦校：熊本高等専門学校 熊本キャンパス 結果：2-1 (前半0-0、後半1-1、延長0-0、1-0)

まだまだ練習環境が整っていない中、地区大会19連覇をはじめ、全国大会でも活躍を維持できているのは学生一人ひとりの努力はもちろんのこと、近隣体育館への引率や他校との練習調整などに尽力して下さっている顧問の先生方の支えがあってこそです。心より感謝申し上げます。



体験入学と

建築学科



構造実験体験

環境都市工学科



柔らかい金属を使ってアクセサリーを作ろう

体験入学

2025年度の体験入学は、7月19日（土）、20日（日）の両日の午前と午後に開催しました。1回あたりの定員をAコース3班、Bコース2班、各班40名の200名に設定し、合計4回実施しました。体育館新設工事の影響で、学内に駐車スペースを用意できなかったため、澁谷工業(株)津幡工場様と(株)久世ペローズ様の駐車場をお借りしてシャトルバスを運行する事になり参加者の皆さまにはご迷惑をおかけしました。

当日は中学生521名、保護者386名の参加があり、本校を知っていただく良い機会になったと考えます。また、当日は各専門学科の数名の学生に引率と説明役をお願いしました。各専門学科の体験テーマ、寮の見学の様子と保護者対象の学校説明会を紹介します。



保護者向け学校説明

電気工学科

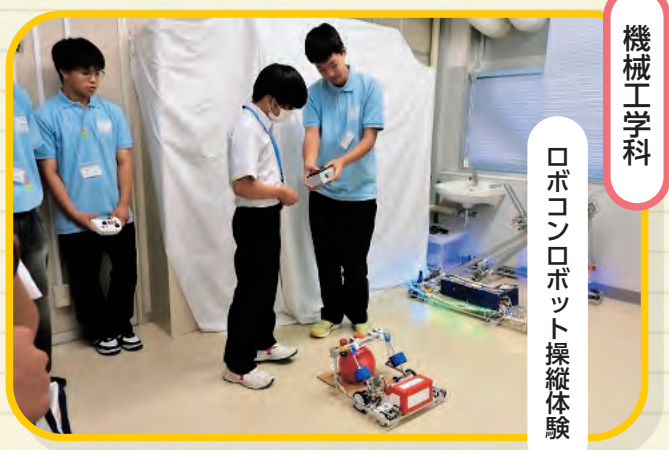


液体窒素で -196℃の世界を体験しよう



学生寮見学

機械工学科



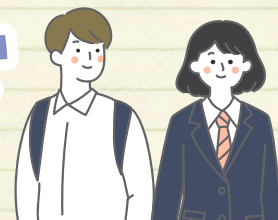
ロボコンロボット操作体験

AIで犬と猫を見分けよう



電子情報工学科

オープンカレッジ



建築学科



体験入学とオープンカレッジのどちらも、石川高専の教育・設備などについて理解してもらう機会となっているのではないかと思います。

校長補佐（入試広報担当） 徳井 直樹

オープンカレッジ

機械工学科



昨年度と同様に、紀友祭と同時開催で11月1日（土）、2日（日）の二日間に渡って行われました。各学科の工夫をこらした展示とともに、視聴覚教室での学校説明会および入試相談コーナーを設けました。学校説明会は両日も午前2回、午後1回実施し、中学生と保護者合わせて215名の方に参加していただきました。入試相談コーナーでは、中学生と保護者合わせて37名の方に来ていただきました。各学科の展示については各自で自由に見学していただきました。中学3年生と保護者の方には本校を知ってもらう今年度最後の機会として、中学2年生以下と保護者の方には来年度以降の体験入学につながる機会となったと考えています。

環境都市工学科



学校説明会



電気工学科



電子情報工学科





入試説明会について



石川高専では、毎年9～10月に中学3年生とその保護者を対象として入試説明懇談会を開催しており、今年度は以下の日程で実施しました。

日程	会場
9月15日(月・祝)	津幡町 本校 ※午前・午後の2回開催
9月21日(日)	小松市 小松商工会議所 ※午前・午後の2回開催
9月23日(火・祝)	高岡市 高岡文化ホール
9月28日(日)	津幡町 本校 ※午前・午後の2回開催
10月12日(日)	七尾市 ワークパル七尾
10月18日(土)	津幡町 本校

例年と同様に各回で定員を設定のうえ事前申込制とし、保護者の方の同伴も1名とさせていただきました。

今年度は全部で9回開催し、多くの会場について早期から申込が定員に達する等、たいへん多くの方にご参加いただきました。

入試説明懇談会では本校の概要や教育内容についての説明の他、「WEB出願方式」等の入学試験に関する説明を行いました。

その後、特定の学科について詳しく知りたい方に対して、各学科の教員が詳細な説明を行い、どの会場でも多くの方が教員に対して熱心に質問する姿等が見られました。

参加された中学生や保護者の方からは、「説明を聞いてますます入学したくなった」、「今回の説明で志望学科が明確になった」、「〇〇学科について、より深く理解出来た」などの感想をいただくことができました。

本校では中学校教諭や学習塾の先生を対象とした学校説明会も実施しています。

中学校教諭を対象とした学校説明会では、本校の概要説明と今年度の入学試験に関する説明を行い、石川県だけでなく富山県の中学校からもご参加いただきました。

質疑応答の時間には、「推薦による選抜」や「WEB



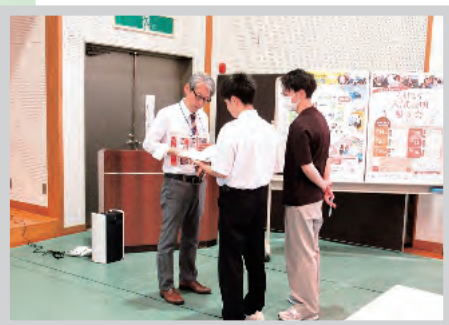
出願方式」等について多くの質問があり、参加教諭の方々は熱心にメモを取るなど本校教員の説明に聞き入っていました。

学習塾の先生を対象とした学校説明会については、参加者の利便性を考慮し、オンラインでの開催とし、本校の概要と入学試験に関する説明を行いました。

参加者の方からは「今年度の入試に関する情報が分かり、生徒の指導にたいへん参考になった」、「学校および各学科の求める人材像が理解できた」といった感想が聞かれました。

これらの他に、中学校で開催される学校説明会に本校教員が参加し中学生や保護者の方に本校の説明を行ったり、中学校PTAの皆さんの本校見学を積極的に受け入れたりしています。

これらの様々な機会を通して多くの方に本校について知っていただき、「石川高専に入学したい!」、「石川高専〇〇学科に入って好きなことを勉強したい!」と思っただけであればと思います。



学生会活動 について



学生会会長 電気工学科4年 老子 巧真

高専だよりをご覧の皆様、日頃より大変お世話になっております。石川高専学生会会長の電気工学科4年老子巧真です。今回は学生会執行部の活動についていくつか紹介したいと思います。

初めに、学生会執行部について皆さんはご存じでしょうか？学生会執行部は、石川高専の学生から募集した有志で構成されており、学生の意見を集約し、学生を代表して執行する機関です。

主な活動としては、学生行事の企画運営、学生会費の会計管理、各種委員会の管理運営、他高専との交流会の実施、学生会誌「若人」の発行などがあります。学生行事は、4月に行われる学生総会・新入生歓迎会および新入生歓迎イベント、5月の春季球技大会、6月の高専大会壮行会、9月の高専大会報告会、10月の秋季球技大会、1月の学生会執行部役員選挙を行っています。これらの行事は、ほとんどが震災の影響でTeamsを用いたオンライン形式での開催でしたが、先生方や学校関係者の皆様のサポートもあり無事に終わることが出来ました。

これらの行事の中でも、特に印象に残っているのは秋季球技大会です。近年の球技大会では、震災の影響により学校施設が使用できなかったため、ダーツやパターゴルフなど、屋内でもできる競技を取り入れて運営してきました。しかし後期に入り、仮設体育館が完成したことで、バスケットボール競技を復活させることができました。久しぶりの運営ということもあり不安はありましたが、多くの観客が見守る中全力で競技に参加する皆さんの姿を見ることができ、とても嬉しかったです。また、紀友祭は屋外ステージや露店の出店数に制限があり、通常どおりの開催とはなりませんでしたが、多くの方々にご来場いただき、非常に盛り上がる行事となりました。今年度は、震災前の行事を少しずつ取り戻し、学校全体として以前にも増して活気にあふれた一年となりました。

最後になりましたが、皆様のご協力により今年度も学生会執行部では様々な行事を開催することが出来ました。この場を借りて感謝申し上げます。今後とも学生会執行部へのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。最後までお読みいただきありがとうございます。



秋季球技大会の様子



令和7年度学生会執行部メンバー

会長	4E・老子
副会長	3I・太田(和)、3I・境、3I・津田(妃)
監事	4M・下西、2I・鳥巢
会計	2M・水上、2E・宮川



有朋寮

yuhoryo

『寮務主事の5年間を振り返る』

副校長（寮務担当）岩竹 淳

寮務主事を拝命して5年目。その業務実態はというと、寮生の点呼や登校状況把握、清掃指導、体調不良者対応、家電や施設修理の対応等々、もはや集合住宅の管理人です。そんな学生寮の管理人を5年も続けて来られたのは、業務を助けて頂いている教職員皆様のおかげであり、この場を借りてお礼申し上げます。高専の5年間というと、中学生の面影を残した新入生が大人の顔つきで卒業していく一区切りの年数です。この5年間の寮運営に関して、年度毎に取り組んできたことを順に振り返ってみたいと思います。

新入寮生歓迎会



避難訓練



芋掘り



《2021年度》

新型コロナウイルス感染症防止対策と寮務のDX化

- 体調不良者と保健室との連絡体制強化
- 毎晩20時に手摺やドアノブ等の消毒と居室換気指示
- 食堂テーブルに衝立設置
- 点呼や入浴時間の分散化
- 点呼や外泊申請の電子化（寮務システム導入）
- 朝の音楽変更
- 寮生PCR検査
- 2人部屋に医療用間仕切りカーテン設置
- 合宿所に隔離療養室設置

《2022年度》

寮生間で交流が持てる生活様式への移行

- 点呼や入浴時間の分散化解除
- 寮生会行事の再開
- 男子寮リースエアコンの更新
- 早朝の昼食弁当受け取りが可能なように高機能クーラーボックス購入
- 寮生会と教員との連絡協議会を定例化
- 留学生交流事業再開（金沢市内観光）
- 寮生会交流事業再開（明石高専）
- 女子寮シャワーのガス給湯化
- 災害対策用飲食物の備蓄開始

《2023年度》

アフターコロナの生活様式構築と豪雨・大雪・地震といった自然災害発生

- 食堂衝立の撤去
- 食堂の一方通行導線廃止
- 夜間の消毒と居室換気を廃止
- 女子寮バスマット掃除を業者委託
- 海寮玄関の外履き放置対策として土足禁止エリアの拡大（スノコ設置）
- 玄関に放置物収集コンテナ設置
- 食堂ライト下のガラス板撤去（羽虫対策）
- 男子1-2年風呂脱衣所のエアコン設置
- 寮生会交流事業（長野高専）
- 主要道路（寮坂）崩落のため迂回路の整備
- 冬休み中の被災者早期受け入れ
- 津幡町へ破断した下水管と寮坂の復旧要請

《2024年度》

能登半島地震による被災からの復旧対応

- 震災対応手順の整理
- 各フロアに非常用LEDランタンを配置
- 男子3-4年と5年風呂脱衣所のエアコン設置
- 女子寮生の増加により山寮1Fを女子寮化
- 山寮1Fに国際交流室設置
- 震災を想定した避難訓練の実施
- 寮生会交流事業（奈良高専）
- 留学生交流事業（イオックスアローザ）

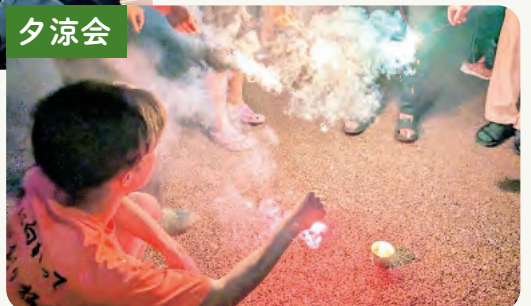
《2025年度》 教員働き方改革

- サツマイモ畑の拡張と増産
- 教員当直体制の見直し
- 当直者必携の大幅改訂（傷病者対応や震災対応を更新）
- 寮生会交流事業（鈴鹿高専と沼津高専）

卒業寮生を送る会



夕涼会



以上、簡単に5年間を振り返ってみましたが、世界的な感染症から日本史に残る巨大地震へと慌ただしく過ぎていきました。今後も予期せぬ事態は起こると思いますが、『寮生が健康で安全に自律した生活を送れるよう支援する』このことを念頭に、学生寮に入って良かったと思える寮運営を続けていきます。



「有朋寮」での生活

有朋寮 令和7年度年度総代 建築学科3年 川島 有陽

私は2023年に入学し、現在3年生として有朋寮の総代を務めています。入学前は、自分が総代になるなど想像もしていませんでした。しかし、実際に寮生活を送る中で、当初の予想をはるかに上回るほどの楽しさや充実感がこの寮にはあると感じました。その中で、「この寮のために何か挑戦してみたい」「より良い寮生活を支える側に回りたい」という思いが芽生え、一つの挑戦として総代を務めることを決意しました。

私が初めてこの寮に足を踏み入れたとき、不安と寂しさで胸がいっぱいだったことを今でも覚えています。周囲は知らない顔ばかりで、慣れない環境、初めての親元を離れた生活に戸惑いを感じていました。今年入学してきた一年生も、きっと同じような気持ちを抱いていたと思います。しかし、先輩方が気さくに声をかけてくれたり、同じクラスの友達と話す機会が増えたりする中で、少しずつ不安は薄れていきました。気づけば寮生活はとても楽しいものとなり、通学時間が短くなったことや、毎日三食きちんとした食事が出ることなど、寮に入って本当に良かったと感じるようになりました。

各寮棟には補食室や談話室、自習室などが整備されています。補食室では仲間と料理をしたり、談話室では談笑したり、設置されているボードゲームで遊んだりすることができます。また、自習室では一緒に勉強に励むこともでき、特にテスト期間中は多くの寮生が集まり、互いに刺激を受けながら学習しています。こうした日常を通して、同じクラスの人だけでなく、他学科や他学年の人たちとも自然と

仲良くなれることが、寮生活の大きな魅力だと感じています。

寮の食事も、有朋寮の自慢の一つです。毎日多くの種類のメニューが用意されており、イベント時には特別メニューが提供されることもあります。栄養バランスがしっかり考えられているだけでなく、丼ものやハンバーガー、ラーメンなど、飽きることなく楽しめる工夫がされています。私はこの寮の食事がとても好きで、毎食楽しみにしています。「これがあまり好きではない人は、家ではどれほど良いものを食べているのだろう」と思ってしまうほどです。

さらに、この寮には他高専の寮にはないほど多くのイベントがあります。新入寮生歓迎会ではビンゴ大会が行われ、夕涼み会ではかき氷やフルーツ、アイスなどが振る舞われます。秋には焼き芋大会もあり、季節を感じながら寮生同士の交流を深めることができます。これほどイベント数が多い寮は、他にはなかなかないと思います。

私たち寮生会執行部は、こうしたイベントや日々の生活を通して、学年や学科の垣根を越えて寮生同士が仲良くなり、規則を守りながら楽しく充実した寮生活を送ってもらうことを目標に活動しています。総代として、これからも寮生一人ひとりが「この寮に入ってよかった」と思えるような環境づくりに最後まで尽力していきます。

■令和7年度寮生会役員（長のみ紹介）

総代…3A・川島

海寮長…4C・山田、山寮長…3A・小関

中寮長…3A・西野、宙寮長…4E・掃部



学 科 ・ 専 攻 科 だ よ り

M 機械工学科

学科長 藤岡 潤

機械工学科の学生は、輸送・産業機械をはじめ、食品、医療、化学など、社会を支える「ものづくり」の多くの分野で活躍が期待されています。「ものづくり」を成り立たせるためには、多様な機械技術や装置が不可欠であり、機械工学はその基盤を担う存在だからです。企業では、設計開発から生産技術、保守管理に至る幅広い職種で即戦力となるエンジニアとして、大学では、知識と実践的技術を兼ね備えた研究者として、機械工学科卒業生は高く評価されています。社会や経済の環境は日々大きく変化していますが、「ものづくり」は人々の豊かな生活を支えるために欠かせない営みです。豊かな社会の実現とその持続性を両立させるため、新しい知識と技術をもって社会に貢献できるエンジニア、研究者を育成したいと考えています。

進路状況

令和8年卒業予定の5年生は在籍37名で、就職23名、進学14名となりました。就職では、毎年希望学生数の数十倍を超える求人が寄せられており、社会から実践的なエンジニアとして引く手あまたの状況です。近年は採用日程の前倒しが進んでいますが、早期選考も含め、一人ひとりが真剣に企業研究を行い、自身の将来像を意識しながら就職活動に取り組んでいました。進学では、日々の学業に励み、推薦・学力入試を通じて、全員が希望に沿った大学や専攻科への合格を勝ち取りました。近隣の国立大学や専攻科、私立大学など、進学の実績も多様化しており、高専で培った実力が次の学びへと確実につながっています。

[就職先]

小松製作所粟津工場、小松製作所金沢工場、出光興産(株)、フードテクノエンジニアリング(株)、サントリー(2名)、(株)日野ヒューテック、YKK(株)、福井村田製作所(株)、ヤマハモーターエンジニアリング(株)、ムラテックCCS、澁谷工業(株)、(株)イシダ(2名)、アサヒ装設(株)、アマゾンジャパン、ニッコー(株)、川崎岐阜エンジニアリング(株)、キタムラ機械(株)、クオリカ(株)、朋和産業(株)、日本ゼオン(株)

[進学先]

石川工専専攻科(5名)、金沢大学(5名)、豊橋技術科学大学(2名)、早稲田大学、金沢工業大学

学科関連行事

5年生は11月に卒業研究の中間報告会を行い、4月から取り組んできた研究成果を発表しました。会場では活発な質疑応答が交わされ、研究に真剣に向き合う姿が印象的でした。4年生は多くの学生が夏季インターンシップに参加し、さまざまな現場で実務を体験しました。11月には3年生も交えた報告会を開催し、経験や学びを共有しました。9月末には、1年生から4年生までが国内外の見学・研修旅行に参加しました。機械工学科4年生は台湾を訪問し、現地企業の見学などを通して視野を広げました。



インターンシップ報告会



4年研修旅行(台湾中正紀念堂)



4年研修旅行(企業見学 FEELER)

電気工学科は、エネルギー、通信、情報、半導体など電気に関する様々な分野で活躍できるよう、基礎から応用まで幅広い知識と技術を身につける教育を行っています。また、近年ではCOMPASS 5.0（次世代基盤技術教育のカリキュラム化）の蓄電池分野の教育活動も行っています。

進路状況

今年度の5年生は、在籍が35名で、進学希望が19名、就職希望が16名です。進学希望が就職希望を上回りました。就職については、例年どおり、電力分野や電気・電子系メーカーをはじめ、機械系、情報・通信系、化学系、医療系、食品・飲料系、建築・建設系など、様々な分野から多くの求人をいただきました。就職希望学生は、企業の説明会などに参加して、多くの学生が希望する企業様から内定をいただくことができました。また、夏季インターシップ参加企業からの早期選考を選択する学生が数名いました。

進学については、昨年度と同様、本校専攻科と豊橋・長岡の技術科学大学に推薦で編入学する学生が多くいました。また、有名国立大学を受験する学生が昨年よりも増えました。

【就職先】

アイリスオーヤマ、EIZO、関西電力、小松村田製作所、サントリーホールディングス、ジェイ・バス、JR西日本、JR東海、トヨタ自動車、東京ガスネットワーク、NEXCO中日本、富士フィルムビジネスイノベーションジャパン、北陸電力（2名）、LIXIL、レンゴー

【進学先】

石川高専専攻科（7名）、金沢大学（2名）、豊橋技術科学大学、長岡技術科学大学（4名）、北海道大学、大阪大学、九州工業大学、立命館大学、東京電機大学

学科関連行事

3年生は、10月に合宿研修で大阪方面へ行き、京セラ株式会社滋賀野洲工場の工場見学、COMPASS 5.0蓄電池分野に関連して産業技術総合研究所で小型電池製造実習に取り組みました。4年生は、夏季休業期間中にインターシップに参加し、大学と企業での業務を体験しました。また、10月に3、4年生合同でインターシップ報告会を実施しました。9月末には、3泊4日で台湾へ海外研修旅行に行き、明新科技大學での国際交流と故宮博物院などの観光を楽しみました。5年生は就職・進学が決まり、卒業研究に取り組みました。7月と11月に中間発表会、12月に予備審査会を行い、2月の卒業研究発表会において1年間の成果を発表しました。

学科全体では、10月の秋季球技大会において電気工学科は学科対抗で3位でした。特に、4年電気工学科は、ソフトボール3位、屋外バレーボール3位、ダーツ2位、ベストクラス2位、5年電気工学科はダーツ1位でした。11月の紀友祭と同時開催したオープンカレッジではLEDバッジの製作体験、4年生は創造工学実験で半年間かけて制作した作品の展示をしました。2月に予餞会を行いました。資格試験においては、技術職員と教員が第二種電気工事士（春季・秋季）の実技試験のサポートを行っています。



オープンカレッジ (LED バッジの製作)



オープンカレッジ (創造工学実験の展示)



球技大会



卒業研究の予備審査会

近年、電子・情報・通信技術の進歩により、私たちの生活はさらに便利になっています。特に AI の進化は目覚ましく、文章や画像を理解し、生成する能力が飛躍的に向上しました。これらの技術は医療、交通、環境問題の解決など、幅広い分野で活用され、社会全体を支える重要な力となっています。今後ますます重要性を増す電子・情報・通信技術の分野で活躍できる人材の育成に、私たちは力を注いでいきます。

学生の活躍

電子情報工学科出身で専攻科 1 年生の宇野伸一さんがメンバーのチーム（指導教員：越野先生）は、8 月 17 日（日）に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された WRO Japan 大会 Future Engineers 競技において優勝し、日本代表チームとして世界大会に選出されました。WRO（World Robot Olympiad）は、ロボットの製作とプログラミングによる自動制御技術を競う国際コンテストです。世界大会は 11 月 26 日～28 日にシンガポール・マリナベイサンズで開催され、同チームは全競技で満点を獲得する活躍を見せ、60 チーム中 9 位という好成績を収めました。

進路状況

令和 7 年度の本科卒業予定者は 39 名で、卒業後の進路は就職 21 名、進学 18 名となりました。例年通り、就職と進学の割合はほぼ半々です。

【就職先】

アール・ビー・コントロールズ、アイエスピー、eSP（イー・エス・ピー）、石川ツエーゲン（ツエーゲン金沢）、インテージテクノスフィア、エスアイエス・テクノサービス、SCSK ニアショアシステムズ（2 名）、NTT データ、NTT データ北陸、クレスコ、クレスコ北陸、シーエーシー（CAC）、Speee、東京ドロウイング、トーテックアメニティ、トヨタシステムズ、日立情報通信エンジニアリング、ポッシュ、リコー、リコー IT ソリューションズ

【進学先】

石川高専専攻科（11 名）、金沢大学、東京科学大学、北海道大学、千葉大学、長岡技術科学大学、福井大学、高知大学

学科関連行事

卒業研究発表会

11 月 26 日（水）、5 年生による卒業研究中間発表会をポスター発表形式で実施しました。教員やクラスメイト、4 年生の学生に対し、5 年生が自身の研究内容をポスターを用いて説明し、質疑応答やコメントを通じて活発な議論が行われました。また、2 月 13 日（金）には卒業研究の総まとめとなる最終発表会を口頭発表形式で実施しました。



WRO 世界大会

C 環境都市工学科

学科長 重松 宏明

環境都市工学科では、安全で快適な人々の暮らしを支える社会資本の整備、防災、環境保全に関する技術を習得し、よりよい都市づくりに貢献できる技術者の育成を目指しています。人々の役に立ちたい、自分を高め、新しいことを発見し、挑戦したい、という目的意識の高い学生たちが日々学んでいます。

進路状況

本年度の5年生の在籍者数は、留学生1名を含めて37名（そのうち女子は22名）です。最終的な進路は、就職32名（うち建設系8名、インフラ系9名、コンサル系9名、公務員5名、その他1名）、進学5名（うち大学2名、専攻科3名）となり、公務員を最後に11月中旬には全員の進路が決まりました。中でも特筆すべき点として、民間企業志望の学生27名のうち、24名が第一志望の会社から内定を頂戴していることです。建設業界は超売り手市場の好景気で、民間企業への就職志望者に対する求人倍率は20倍を超えています。企業からは第一線で働くOB、OGが求人に来ることも多く、彼らの活躍がこの求人倍率の高さに反映されているものと感じています。

【就職先】

国土交通省北陸地方整備局（4名）、金沢市役所、東京ガス、大阪ガス（2名）、北陸電力、東京水道、NEXCO中日本エンジニアリング名古屋、NEXCO中日本ハイウェイメンテナンス北陸、水資源機構、エオネックス、清水建設、川田工業（2名）、東急電鉄、東亜建設工業、長谷川体育施設、IHインフラシステム、駒井ハルテック、ニュージェック、中央設計技術研究所、東京コンサルタンツ、国土開発センター、日本海コンサルタント、アルスコンサルタンツ、中部地質、ホクコク地水、東洋設計、YKK

【進学先】

石川高専専攻科（3名）、熊本大学、立命館大学

学科関連行事

本年度も数多くの学外活動・見学会に参加しました。主な活動・見学場所は、ニューマチックケーソン（鷹合川橋下部工）の現場見学（5年生）、能登半島地震で液状化被害を受けた岸壁の復旧工事の視察（4年生）、珠洲市大谷小中学校で中学生を対象とした被災した道路の復旧方法に関するマイクラフトを用いた授業（5年生）、毎年行われている県道の浦田橋における橋梁点検実習（5年生）などです。毎年、専門分野への興味・関心を持ってもらう目的で行っています。



ニューマチックケーソン（七尾市国分町）の現場見学の様子（2025年7月28日）



マイクラフトを用いた授業（2025年10月7日）



金沢港見学会（2025年10月6日）



橋梁点検実習の体験（2025年10月17日）

学生たちは、建築設計に関わる、設計製図、施設計画、構造計画、設備計画、材料特性について基礎から応用まで広く学び、授業、研究室活動を通して、都市的・社会的な課題の解決に取り組んでいきます。家具製作から室内計画、建物、地域課題までを相手にし、構想を膨らませて形を確認しながら、企画提案し、建築的な解答を探ります。

学生の様子

建築学科2年生、3年生、4年生の各構造系授業では、能登半島地震によって被災した学内体育館施設を新設する工事の現場見学を実施しました。第5回「木の文化都市・金沢ミライまちづくり」学生提案事業において、5年生4年生合同チームが優秀賞を受賞し、これについて2025年12月15日に金沢市長報告会が開催され受賞チームが参加しました。4年生は、建築設計IVでの津幡町庁舎建替え計画について、海外研修旅行において国立台湾大学で発表をしました。3年生は、造形演習での間伐材家具について、津幡町商工会主催イベントにおいて、作品展示、パネル展示をしました。

第22回デザコンが、2025年11月8日、9日の日程で福井高専において開催され、創造デザイン部門で4年生2チームが審査員特別賞、日本オーチス・エレベーター賞を受賞し、空間デザイン部門で3年生が三菱地所コミュニティ賞を受賞しました。第31回北陸の家づくり設計コンペでは5年生の1作品と4年生の2作品が佳作を受賞し、第4回ボラス・インターハイ2025（高校生・高専3年生以下）では設計部門で2年生が最優秀賞を受賞し、3年生が佳作、3年生と2年生が奨励賞を受賞しています。第52回石川県デザイン展では、学生部門第1部で4年生5年生合同チームの2作品が奨励賞を受賞し、学生部門第2部で3年生の作品が銀賞、2年生の作品が銅賞、奨励賞を受賞しています。建築甲子園2025で3年生の作品が準優勝を獲得しました。

二級建築士試験に、専攻科2年生1名、専攻科1年生4名が合格しています。宅地建物取引士に5年生1名、2年生1名が合格しています。一級施工管理技士補に5年生1名が、二級施工管理技士補に4年生1名、3年生3名が合格しています。海外留学経験として、4年生1名が留学し、国際的な視野を拓けています。

進路状況

本年度の卒業予定者は40名で、卒業後の進路は、就職23名、進学17名となります。

【就職先】

大成建設、大林組（2名）、鹿島建設（2名）、東京ガス、三菱地所プロパティマネジメント、JR西日本不動産開発、砺波工業、乃村工藝社、丹青社、コトブキシーティング、サンテンコーポレーション、ザイマックス、YKK AP（2名）、コマニー（3名）、小泉産業、山崎設備設計、七尾市

【進学先】

石川高専専攻科（3名）、神戸大学、千葉大学、奈良女子大学（2名）、福井大学（2名）、金沢大学、宇都宮大学、神戸芸術工科大学、立命館大学、東京都市大学、千葉工業大学

学科関連行事

5年生卒業研究

5年生は、前半は進路を決めるべく就職活動、編入学試験に挑みながら卒業研究を進め、6月13日に中間報告、10月17、23日に中間審査、12月8、9、11日に最終確認し、1月27日に提出締切、2月12日、13日に卒業研究発表会（審査）を実施しました。

4年生学外実習、課題演習発表会

4年生は、夏季休業中に学外実習として、35名が30社で実習経験をえました。課題演習発表会を、前期10月9日、後期2月24日に開催しました。



金沢市長報告会の様子



学内、新設体育館の現場見学の様子



専攻科

専攻科長 山田 悟

現在の専攻科在籍者数は、1年生が電子機械工学専攻 13名、環境建設工学専攻 11名、2年生が電子機械工学専攻 17名、環境建設工学専攻 13名となっています。

昨年度は、専攻科カリキュラムの改訂や学位授与機構への学位申請方法の変更など大きな制度変更がありましたが、今年度はそれらが円滑に運用され、専攻科教育が着実に定着してきています。

進路状況

今年度は、2年生 30名中 7名が大学院への進学予定です。進学先は、金沢大学大学院が 4名、福井大学大学院、長岡技術大学大学院、筑波大学大学院がそれぞれ 1名です。例年に比較すると、協定を利用した金沢大学大学院への進学者が多いです。大学院進学者に大学院進学を志望した時期やその動機を聞いたところ、専攻科入学時には大学院への進学することを決めていなかったが、専攻科での研究活動や長期インターンシップ期間中の経験を通じて、より学びを深めたいという声が多かったです。進学を決めてからは、大学院の研究室選びなど、本科からの大学編入学とは全く異なる活動を行わなければならない、早めの準備をしたほうがよいとのことでした。

就職については、本科以上に企業の求人、就職に向けた動きが早まっており、長期インターンシップ期には、就職を希望する企業がある程度決まっていなくて遅いという印象があります。多くの学生が、第一希望の企業から内定をいただいたようですけれど、やはり早めの準備が大切だと感じています。

具体的な進路状況は以下のとおりです。

【就職先】

【電子機械工学専攻】

EIZO、NEC 航空宇宙システム、PFU、金沢エンジニアリングシステムズ、金沢村田製作所、小松製作所、東振精機、福井村田製作所、三菱重工業、ラック

【環境建設工学専攻】

NTT インフラネット、石川県庁 土木部、奥村組、川田工業、クロスティホールディングス、国土開発センター、佐藤工業、中日本ハイウェイ・メンテナンス北陸、ホーク・ワン、北電技術コンサルタント、前田建設工業、三谷産業

学科関連行事

◆創造工学演習

専攻科では、専門分野の異なる学生同士でチームを組み、与えられた制約の下で計画的に仕事を進めて、最終的には想像の喜びを体得できるよう創造工学演習を実施しています。特に専攻科1年で実施される「創造工学演習I」は、中学生以下の生徒を対象に科学技術への関心を深めものづくりの楽しさを体験できるようなテーマを考え、その作成を行います。その成果は、「夏休み子ども石川高専」において、体験型授業として実施されました。



夏休み子ども石川高専での体験型講義の様子

◆長期インターンシップ報告会

令和7年12月12日、本校図書館にて、専攻科1年生による長期インターンシップ報告会を開催しました。報告会には、2か月間インターンシップを受け入れてくださった企業の皆さまをはじめ、産業界や官公庁など関係機関から、計55名の方々にご参加いただきました。

学生たちは、インターンシップでの実習内容や身につけた知識・経験をポスターにまとめて発表を行い、企業の方々との活発な意見交換が行われ、大変充実した報告会となりました。



インターンシップ報告会

専攻科 長期 インターン シップ

専攻科長 山田 悟

専攻科1年次において単なる就業体験にとどまらず、実務体験を通じて地域企業が抱える課題や社会的課題に対処するため、技術者としての基礎的能力と実務に活かせる応用力を身につけることを目的として、長期インターンシップを実施しています。今年度は、10月22日から12月2日の二か月間にわたって実施されました。受け入れ企業、団体のご担当者の皆様に厚く御礼申し上げます。

また、今年度はインターンシップ期間中に2社の協力を得て、海外で約2週間の研修を実施しました。海外研修に参加した学生は2名で、非常に有意義な経験となり、今後のキャリアを考える上でも大きな影響を受けたと感想を述べていました。この海外でのインターンシップ実施の取り組みは今後も継続していきたいと考えています。

以下に今年度インターンシップでお世話になった企業、団体をご紹介します。

電子機械工学専攻

Asian Bridge、EIZO、PFU、アイナックス稲本、金沢村田製作所、小松製作所、澁谷工業、ドローンショー・ジャパン、日機装、三井情報、リコーITソリューションズ

環境工学専攻

NTTファシリティーズ、石川県土木部、カネタ建設、国土交通省北陸地方整備局、清水建設、ニコ設計室、日本工営、複合技術研究所、三谷産業、八千代エンジニアリング

電子機械工学専攻

電子機械工学専攻 1年 四十住 陽輝
実習先▶コマツ氷見工場

私はこの度、コマツ氷見工場にて2ヶ月間のインターンシップを体験しました。同工場は、建設・鉱山機械のエンジンなどに使用される重要な鋳造部品を製造しており、開発から量産までの一貫したプロセスを担っています。私はここで「生産技術者としての基礎教育」をテーマに、現場の課題解決に向けた実務を学びました。

実習では、CADを用いた3Dモデル作成やVRによる作業性確認といったフロントローディングについて学んだほか、トレーサビリティシステムの導入検討や工程能力評価、タイムスタディによる改善手法を経験しました。特に、協働ロボットやAMR（自律走行搬送ロボット）を用いた自動化の現場では、単に作業を置き換えることを考えるだけでなく、自動化を導入した際のリスクアセスメントや考えられる問題を事前に考えてある程度対策しておくことが重要だと感じました。また、鋳造は一見単純な製法だと感じていましたが、実際には欠陥の種類が非常に多く、熟練者の経験や知識が不可欠な極めて奥が深い技術です。学校での学びは理論が中心になりがちですが、現場では多品種少量生産ゆえの難しさがあり、客観的なデータと現場の知見を融合させる重要性を学ぶことができました。

最後に、この2ヶ月間で得た「現場の視点」や人との繋がりの大切さをこれからの生活でも活かし、物事を多角的に捉えられるよう努めていきたいです。学生のうちに生産現場を体験する貴重な機会をくださったコマツ氷見工場の皆様、そしてサポートしてくださった先生方に心より感謝申し上げます。



環境建設工学専攻

環境建設工学専攻 1年 葭田 理子
実習先▶清水建設株式会社北陸支店

長期インターンシップを通して、清水建設株式会社北陸支店にて実習をさせていただきました。本実習では、ゼネコンで働く技術者の業務内容や職場環境を実際に体験し、将来の進路を考えるうえでの視野を広げることを目的として参加しました。支店や現場で多くの方に丁寧にご指導いただき、貴重な学びの機会となりました。

実習では、支店での内業と現場での外業の両方を経験しました。支店では、土木技術部や土木生産計画部にて、現場を支える業務や計画・管理の重要性を学びました。現場では、施工状況の確認や安全管理、工程管理の様子を間近で見学し、現場監督が担う役割の幅広さを知ることができました。

この実習を通して、これまで抱いていたゼネコンに対するイメージが大きく変わりました。現場や職場環境には女性技術者への配慮が行き届いており、安心して働ける環境であると感じました。また、信頼関係やコミュニケーションが仕事を円滑に進めるうえで非常に重要であることを学び、現場を支える立場の技術者に強い魅力を感じるようになりました。

今後は、専門知識をさらに深めるとともに、積極的にコミュニケーションを取る姿勢を身に付けていきたいと考えています。疑問をそのままにせず、自ら質問し学ぶ姿勢を大切にしながら、将来は現場の状況を理解し、施工を思いやれる技術者を目指して、学業や研究、就職活動に取り組んでいきたいです。



トライアル研究 センターだより

トライアル研究センター長 堀 純也

トライアル研究センターでは、子どもたちへ科学に触れて遊んで、もっと科学に興味をもってもらうための出前授業から社会人向けのリカレント教育まで、幅広く地域の理科学教育やものづくり教育の支援を行っています。



● 夏休みこども石川高専

毎年好評を頂いております「夏休みこども石川高専」は、7月27日（日）に開催し、小学4年生～中学3年生の親子204組475名と多くの参加を頂きました。受講者は15の学習テーマの中から一つを受講し、ロボット制御、AI体験、ペットボトルロケットやソーラーカー製作、建築模型、防災関連の工作など、多様な理工系分野のワークショップに取り組みました。中でも「AIを遊びながら体験してみよう」や「体を動かしてゲームを操ろう!」といったデジタル分野のテーマには高い関心が集まり、また、能登半島地震の影響もあり、防災を意識したテーマにも注目が集まりました。

会場では、保護者やきょうだいとともに訪れる家庭も多く、和やかな雰囲気の中で、子どもたちが楽しみながら学ぶ様子が見られました。今年も理工系の魅力に触れる貴重な機会として、多くの参加者にとって充実した一日となりました。

なお本企画はMRO北陸放送「いしかわのこどもみらいキャ

ンペーン」の一環として実施し、本校の技術振興交流会会員企業様からのご支援を頂き開催することができました。記してお礼申し上げます。

協賛企業様：

株式会社アクトリー/アルスコンサルタンツ株式会社/EIZO株式会社/技研株式会社/宏州建設株式会社/株式会社国土開発センター/第一電機工業株式会社/大鉄工業株式会社北陸支店/高松機械工業株式会社/株式会社中央設計技術研究所/株式会社東洋設計/株式会社豊蔵組/中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋株式会社/株式会社日本海コンサルタント/株式会社PFU/株式会社BBS 金明/北菱電興株式会社/株式会社丸西組/メタウォーター株式会社/森長電子株式会社/株式会社ユーコム (50音順)



夏休みこども石川高専

● 出前授業



「触るスイッチ」を作ろう



まちなかハザード標識の活用について

令和7年度の出前授業は、電子情報工学科の越野教授による「プログラミングクラブの指導」（七塚小学校）やWROロボットプログラミング指導（津幡中学校・津幡南中学校）、機械工学科の小林准教授による特別支援学校対象のワークショップ「「触るスイッチ」を作ろう」など、専門教育の魅力子どもたちに伝える授業を行いました。

また、電気工学科の上町教授・田中准教授による「イルミネーションランタンを作ろう」（科学のまちつばた「科学の祭典」）、など生活の中で専門技術や知識を活かす授業や、環境都市工学科の津田教授による「身近な「森本・富樫断層」防災・減災で備える」（シニアクラブ太田福寿会）、環境都市工学科の大橋教授による「まちなかハザード標識の活用について」（津幡町）など、地域の防災力を高める実践的な講義など、次世代を担う子どもたちからシニア世代まで、幅広い世代に向けて専門知見を還元する機会となりました。

さらに一般教育科の南教授による「あなたの骨は大丈夫？ ～骨から健康寿命を考える～」（金沢市中央公民館）、技術教育支援センター職員による「オリジナルアクセサリーを作ろう」「にじいろスコープを作ろう」（津幡町中条公民館）や「クリスマスオブジェ作り」（羽昨少年少女発明クラブ）など、多様なプログラムを実施しました。

本校教職員の専門的な知識や経験を参加者に提供し、地域貢献を行うとともに、子どもから大人まで、幅広い年齢層に対し専門家や興味深いテーマに触れる機会を作ることができました。



技術振興交流会

副校長（地域・国際連携担当） 津田 誠

本年度開催した技術振興交流会の主な事業を以下に紹介いたします。

●第38回技術振興交流会見学交流会

令和7年7月15日（火）

見学先：株式会社アクトリー

●令和7年技術振興交流会総会および産学官交流懇談会

令和7年8月21日（木）

場所：津幡町文化会館シグナス

●第39回技術振興交流会見学交流会

令和7年10月21日（火）

見学先：金沢港（南地区）岸壁（-10m）（戸水1号・2号）（災害復旧）改良外1件工事

●第19回企業技術説明会

令和7年11月14日（金）

場所：津幡運動公園体育館

参加企業：182社

●技術振興交流会研修事業

・2025年度デジタル人材リテラシー（オンライン）

令和7年8月26日（火）～29日（金）

・石川高専教員によるリスクリテラシー講座（オンライン）

第1回 令和7年9月12日（金）

第2回 令和7年10月3日（金）

●石川高専テクノフェスタ2026（開催予定）

令和8年3月下旬

場所：本校視聴覚教室



総会



見学交流会（株アクトリー）



見学交流会（金沢港）

今年度の技術振興交流会総会は会長の豊蔵享一氏（株式会社豊蔵組 代表取締役）が議長を務め、令和6年度の事業報告・決算報告・会計監査報告、令和7年度の事業計画・予算案が原案のとおり承認されました。

技術振興交流会総会に引き続き開催した産学官交流懇談会では、電子機械工学専攻2年 宇野 伸一さんによる「PFU 上海インターンシップでの体験談」と環境建設工学専攻2年 坂井 拍斗さんによる「熊谷組インドネシア現場での体験談」と題して、長期インターンシップの体験を交えた学生発表が行われました。

見学交流会は、昨年度まで年1回の実施でしたが、今年度より年2回の実施と回数を増やし、より幅広い分野の最新技術や現場に触れていただけるよう内容の充実を図りました。

第1回目は7月に実施され、見学先である株式会社アクトリーのプラントグループ課長・橋元氏より会社概要について説明いただき、その後、参加者は2班に分かれ、製造工場と再生可能エネルギー研究センターの見学を行いました。見学後の本校教員による研究紹介では「現場でのお困り事を高専の技術で解決～社会実装型教育の取り組み～」と題して機械工学科 小林裕介准教授より発表があり、技術を学ぶだけでなく社会でどう活かすかという「社会実装」の視点を通じ、高専教育が地域産業にもたらす可能性について学ぶことができました。

第2回目は10月に実施され、見学先である金沢港（南地区）岸壁（-10m）（戸水1号・2号）（災害復旧）改良外1件工事を施行されている東洋・本間・あおみJV金沢港戸水作業所の高島所長より事業概要について説明いただき、その後、参加者は2班に分かれ、被災した岸壁の復旧現場において、新たに構築された鋼矢板やアンカーケーブルの見学を行いました。見学後に本校教員による研究紹介では「能登産珪藻土の地域資源特性と震災後の採掘動向に関する実態調査－能登産珪藻土の吸放湿特性を活かした建材・製品開発に向けて－」と題して建築学科 横林修造准教授より発表があり、珪藻土の特性や珠洲の珪藻土を利用した企業の現状について知っていただく良い機会になりました。

この1年で会員数は約20件増加し、347の企業・団体（個人会員含む）となりました。（2025年11月30日現在）会員の皆様と本校との更なる交流が活発化され、深まることが期待されます。



企業技術説明会

副校長（地域・国際連携担当）津田 誠

トライアル研究センター長 堀 純也

●「第19回企業技術説明会」を開催

令和7年11月14日（金）、本科3、4年生および専攻科に進学予定5年生を対象として、「第19回企業技術説明会」を開催しました。今年度は本校体育館は建て替え工事中のため、昨年度に引き続き、津幡運動公園体育館を会場とし、午前の部91社、午後の部91社の合計182社にご参加いただきました。

学生たちは、午前午後合わせて計8社を訪問し、各企業の技術を肌で学ぶ貴重な機会であるとともに、学生たち自身のキャリアを考えるよい機会となっています。特に3年生にとっては、本校で学んでいる専門科目と企業の最先端の技術内容との具体的な結びつきを改めて確認できました。これは、今後の勉学に対する高いモチベーションの維持に直結しています。また、進路選択を目前に控えた4年生は、各企業の方々と直接、個別にお話することで、職場の雰囲気や求める人物像、技術内容などをより深く理解し、自身の進路を具体的に深く考える契機となりました。

当日は、多くの本校卒業生の皆様が、各企業の説明担当者として参加してくださいました。卒業生の方々は、学生生活に対する具体的なアドバイスや温かいエールを交えながら、ご自身の活躍されている企業の特色や技術開発について熱心にお話しいただきました。各企業で即戦力として活躍されている先輩方からの直接的な声掛けやメッセージは、学生たちにとって大きな励みとなりました。

最後になりますが、本会の開催にあたり、参加企業の皆様にはご理解・ご協力を賜り、また当日は熱意をもって技術に関するご説明をいただきましたことに感謝申し上げます。



会場の様子



企業ブース

■参加企業（182社）

アル・ビー・コントロールズ(株)
 (株)IHIインフラシステム
 アイ・システム(株)
 アイナックス稲本(株)
 あおみ建設(株)
 (株)アクトリー
 (株)浅沼組
 アサヒ装設(株)
 (株)Asian Bridge
 アステック(株)
 (株)アスパーク
 アズビル(株)
 アルスコンサルタンツ(株)
 (株)アルパイン設計事務所
 (株)安藤・間
 石川樹脂工業(株)
 (株)石川製作所
 (株)イシダ
 (株)イシメックス
 出光興産(株)
 EIZO(株)
 SCSKニアショアシステムズ(株)
 NTTアノードエナジー(株)
 NTTインフラネット(株)
 (株)NTTデータ北陸
 (株)大阪防水建設社
 大阪有機化学工業(株)
 岡三リビック(株)
 (株)オノモリ
 (株)オリエンタルコンサルタンツ
 オリエンタル白石(株)
 オリエンタルチエン工業(株)
 (株)柿本商会
 (株)梶製作所
 鹿島建設(株)
 鹿島興亜電工(株)
 金沢エナジー(株)
 (株)金沢エンジニアリングシステムズ
 金沢大学施設部
 (株)金沢舗道
 (株)金沢村田製作所
 川田建設(株)
 川田工業(株)
 (株)カンセツ
 (株)関電工
 技研(株)

技建工業(株)
 北川ヒューテック(株)
 キタノ製作(株)
 キタムラ機械(株)
 (株)橋梁メンテナンス
 極東興和(株)
 (株)熊谷組
 (株)クレスコ
 クレスコ北陸(株)
 KDDIエンジニアリング(株)
 (株)建工ホールディングス
 (株)建設マネジメント北陸西
 (株)鴻池組
 コーセル(株)
 (株)KOKUSAIELECTRIC
 (株)国土開発センター
 国土交通省 北陸地方整備局
 (株)コスモサミット
 五大開発(株)
 小松ウオール工業(株)
 コマツNTC(株)
 小松電子(株)
 (株)コマツ氷見工場
 小松マテール(株)
 (株)小松村田製作所
 佐藤工業(株)
 三機工業(株)北陸支店
 (株)三晃空調
 サントリーホールディングス(株)
 (株)シーピーユー
 JFEエンジニアリング(株)
 (株)ジェイ・クリエイション
 芝浦メカトロニクス(株)
 澁谷工業(株)
 正栄産業(株)
 ショーバンド建設(株)
 伸晃化学(株)
 鈴木管工業(株)
 スター総合建設(株)
 セルコホーム(株)
 (株)ソアロン
 (株)ソディック
 第一工業製薬(株)
 第一電機工業(株)
 大鉄工業(株)
 大同工業(株)

大豊建設(株)
 高松機械工業(株)
 高山リード(株)
 (株)TAS
 橋建設(株)
 中越興業(株)
 (株)中央設計技術研究所
 中部地質(株)
 中部電力(株)
 鉄建建設(株)
 東亜建設工業(株)
 東急建設(株)
 (株)東京ウエルズ
 東京ガスネットワーク(株)
 東京コンサルタンツ(株)
 東京水道(株)
 東京都下水道サービス(株)
 東京ドロウイング(株)
 東振グループ(株)東振精機(株)東振テクニカル
 (株)東洋設計
 (株)トーケン
 トーテックアメニティ(株)
 (株)土木管理総合試験所
 (株)豊蔵組
 (株)トヨタシステムズ
 (株)トランテックス
 (株)中川鉄工所
 中日本ハイウェイ・エンジニアリング名古屋(株)
 中日本ハイウェイ・メンテナンス北陸(株)
 ナブテスコ(株) 津工場
 (株)西野製作所
 ニッコー(株)
 (株)日本オープンシステムズ
 (株)日本海コンサルタント
 (株)日本空調北陸
 日本工営(株)
 一般財団法人日本品質保証機構
 日本ファブテック(株)
 (株)ノトアロイ
 能登テック(株)
 (株)ハイマックス
 ハウメット・ジャパン(株)
 長谷川体育施設(株)
 ビーエス・コンストラクション(株)
 (株)PFU
 (株)ヒップ

(株)日野ヒューテック
 フードテクノエンジニアリング(株)
 (株)福井村田製作所
 富士フィルム富山化学(株)
 富士フィルムビジネスイノベーションジャパン(株)
 (株)不動テトラ
 (株)別川製作所
 ベルテックス(株)
 Herrenknecht Asia Headquarters日本支店
 (株)ホクコク地水
 (株)北都鉄工
 北陸コンサルタント(株)
 北陸通信ネットワーク(株)
 (一財)北陸電気保安協会
 北陸電力(株)
 (株)北陸LIXIL製作所
 北菱電興(株)
 ほそ川建設(株)
 真柄建設(株)
 (株)牧田組
 松井建設(株)北陸支店
 松村物産(株)
 松本建設(株)
 (株)丸西組
 丸文通商(株)
 マルホ(株)
 三谷産業(株)
 みなみ設備工業(株)
 宮地エンジニアリング(株)
 村田機械(株)
 メタウォーター(株)
 (株)メンバーズ
 八千代エンジニアリング(株)
 山崎製パン(株)
 (株)山崎設備設計
 (株)ユーコム
 (株)横山商会
 (株)ヨシカワ
 ライオンパワー(株)
 リコーITソリューションズ(株)
 菱機工業(株)
 レンゴー(株)
 YKK AP(株)
 若築建設(株)

(50首順)

国際交流だより

副校長（地域・国際連携担当） 津田 誠

本校では、産業界が求めるニーズを踏まえ、語学力・異文化理解力・リーダーシップ・マネジメント力を備えたグローバルに活躍できる技術者の育成に取り組んでいます。今年度は「令和7年度高専生の海外活動支援事業」の支援を受け、さまざまな学生の活動を実現することができました。4年生では海外研修を昨年に続き全5学科において実施し、海外の連携協定を結んでいる2校との交流も行いました。また、「トビタテ！留学 JAPAN」やその他の海外留学や研修プログラムに参加する学生も増え、さらに、今年度より海外語学研修プログラムの1つとしてフィリピンのセブ島にて2週間の研修が行われ、1年生から3年生の19名が参加しました。

昨年に引き続き今年度も本校の支援企業団体「技術振興交流会」の会員企業2社による海外インターンシッププログラムも実施され、専攻科1年生2名の学生が研修に参加しました。これらの活動を他の学生にも共有できるよう「海外活動報告会」を実施しています。

今年度は本校とタイ高専（KOSEN-KMITL）との間でMOU（覚書）を締結しました。

2025年度トビタテ！留学 JAPANなどの海外留学や研修プログラムに参加した学生

2025年度トビタテ！留学 JAPANをはじめとする海外留学・研修プログラムに参加した学生について、以下のとおり取りまとめました。参加学生の今後ますますの活躍を期待いたします。また、海外留学や研修への参加をご検討中の学生におかれましては、積極的に挑戦いただき、より充実した学生生活を送られることを願っています。

- ・トビタテ！留学 JAPAN 新・日本代表プログラム【拠点形成支援事業】2025年度（第10期）
2I 金谷歩真、3E 根布長陽樹、3I 太田碧、古谷瞳和、3C 藤原京香
- ・グローバルアントレプレナーシップ2025年度：5I 長谷川樹、太島実穂
- ・タマサート大学との学生相互派遣プログラム2025年度：5I 長谷川樹
- ・ペナン海外研修2025年度：4E 岩田和貴
- ・TJ-KOSEN サマーキャンプ in バンコク 2025：5I 長谷川樹、太島実穂、2EM 夏嶋里帆
- ・夏季フィリピン語学研修2025：参加学生1年生1名、2年生4名、3年生14名 計19名



専攻科1年生「技術振興交流会会員による海外インターンシップ」報告会を実施

2025年12月12日（金）、本校視聴覚教室において、「技術振興交流会会員による専攻科1年海外インターンシップ報告会」を実施しました。本校専攻科1年生は、例年、正課授業の一環として10～11月の2か月間にわたりインターンシップを行っています。今年度は、専攻科1年生24名のうち2名が、期間中に海外インターンシップを実施しました。

会員企業による海外インターンシッププログラムは、昨年度に引き続き実施したもので、本校の支援企業団体である347社（技術振興交流会企業会員337社、個人会員1名、特別会員9団体（2025年12月現在））のうち2社において企画・実施していただきました。また、高専生の海外での活動を支援する「高専生の海外活動支援事業」の助成を受け、本プログラムが実現しました。

2名の学生のインターンシップ先は以下のとおりです。今回の報告会には、受入企業もご参加いただきました。

- ・PFU 上海計算機有限公司上海（PSH）
- ・Aureole Construction Software Development Inc.（三谷産業グループ会社）

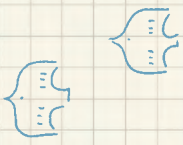


2025年度学生による海外活動報告会を実施

「高専生の海外活動支援事業」による4年生の海外研修をはじめ、各種プログラムで研修・留学を経験した学生による海外活動報告会を、2026年1月30日（金）に本校視聴覚教室で対面およびオンライン併用で実施しました。本報告会は、本校3年生、専攻科1年生、その他の希望者に加え、高専機構本部事務局も対象として開催しました。

今後も一層進展するグローバル化に対応し得る人材育成を目指し、国際的視野を培うとともに、学生の資質・能力の向上につながる海外研修への参加を、引き続き積極的に推奨し、支援していききたいと思います。





同窓会だより



今思うこと

早いもので今年、65歳を迎えます。電電公社（現在のNTTグループ）に就職し、55歳で退職後、建築設計事務所を開設いたしました。

高専4年生の時、建築学科教授であった故・榎田先生にスケッチを教わりました。就職後も仕事でイメージスケッチを描く機会が多く事務所の受託業務の一つとしています。その延長線（あるいは半分趣味の領域）として、石川県内の風景を描き続けています。

年に数回、県内の公共施設等で「身近な風景スケッチ」と題した作品展を開催しています。日常的に見慣れた風景は、ご覧になる地元の方々にとって「温かみがある」「懐かしい」といった愛着を呼び起こし、新たな気づきを与えるきっかけとなっているようです。作品展の開催数は、私が主宰するスケッチ教室のものを含め、延べ25回を数えるまでになりました。

風景を発信する手段として、地元かほく市の風景を描いたバッグやTシャツ、ポストカードなどは、「ふるさと納税」の返礼品にも採用されています。また、能登半島地震以降は、県内外から訪れる方々に被災地へ想

建築学科 第8回生 高井 洋

株式会社Yo建築・環境設計室

いを寄せていただければと、輪島や珠洲の道の駅にて「白米千枚田」や「祿剛崎灯台」のスケッチTシャツを販売しています。ささやかながら、能登の復興に役立てればという想いです。今後もスケッチを通じ、身近な風景の魅力を発信し続けていきたいと思っております。

独立して間もなく10年。当時、想像もできなかった人やモノ・コトとの出会い、そして今も変わることのない「高専出身」という強い絆に支えられ、生かされていることを実感しています。

先日、久しぶりに校舎周辺を散策し、その風景をスケッチしました。国道沿いの竹藪は伐採され、校舎がそびえ立つ風景に時の流れを感じました。



校舎全景スケッチ

「石川高専卒」のブランドに自信と誇りを

機械工学科 第17回生 芝山 守

1986年に卒業してから早39年がたち、今年で還暦を迎えました。

高専を卒業後は、NOK株式会社（旧：日本オイルシール工業株式会社）に入社し、神奈川県にある自動車部品関連の系列会社の技術部門に配属となりました。この会社では4年間勤め、その間の1年は日産とマツダに約半年ずつ出向し、自社部品の耐久試験後の評価結果をまとめて社内へ報告したり、メーカの方のお手伝い等を行っていました。

元々自動車メーカへ就職希望であった為、エンジン設計部門の部署内へ出向させてもらい仕事をするのができたのは非常に貴重な経験でした。今でも忘れることのできない良い思い出です。

その後は石川県に戻り、現在は澁谷工業株式会社で働いています（今年で35年目）。こちらではメカトロ事業部へ配属となり、レーザ発振器の開発・リードフレームのバリ取り装置・ビン検査機・ダイボンダ・LED検査分類装置・テーピングマシン等々の多種多様な装置の設計業務に携わってきました。

今はLEDの検査分類装置とテーピングマシンの設計

および管理業務をメインに行っています。

部品メーカから機械装置製造メーカへと全く違う分野への転職で、最初の数年間は非常に苦労したという記憶が残っています（中途入社だったため、設計における新人教育などはこの頃ほとんどなかった）。そんなこんなで、振り返るとあっといふ間の39年間ですが、「石川高専卒」というブランドを背負って就職できたことには大変感謝しております。

澁谷工業では、現在74名の石川高専卒業生が在籍（内3名は女性）しており、技術・生産・製造等の各部門で日々活躍されています。

私も会社の定年延長によりあと数年働けることになりましたので、これからも「石川高専卒」のブランドに自信と誇りを持って仕事に取り組んでいきたいと思っております。



テストハンドラ EH192



テーピングマシン
ETM482SR

NEWS & TOPICS

01 石川高専「AI Career Tech Center」開所式を開催 ～最先端AI教育と地域連携の拠点が本格始動～

2025年4月18日、本校は、インテル株式会社、株式会社内田洋行との3者連携により、日本およびアジア太平洋地域で初となるAI教育ラボ「AI Career Tech Center」の開所式を開催しました。

開所式には多くの関係者が出席し、富田校長の挨拶に続き、インテル社長、内田洋行副事業部長から祝辞が述べられました。また、石川県知事（代理 浅野副知事）や文部科学省高等教育局専門教育課 松本課長からも激励の言葉が述べられ、本センターへの高い期待が寄せられました。看板贈呈や高専機構理事長の謝辞も行われ、センターの始動が盛大に祝われました。式後には、学生による公開授業も実施され、来賓の方々にAI教育の現場を実際にご覧いただきました。

AI Career Tech Centerは、AI技術を基礎から実践まで学べる環境を整備し、学科横断型の演習や地域企業との連携により、学生の実践力と自主性を育む場となります。高度な演習用PCやネットワーク環境を活用し、地域社会の課題解決にも貢献できる人材の育成を目指します。

今後も石川高専は、インテル・内田洋行、そして地域との連携を深め、次世代AI教育の拠点として、地域が抱える課題解決に貢献し、その成果を全国や世界へ向けて発信していきます。



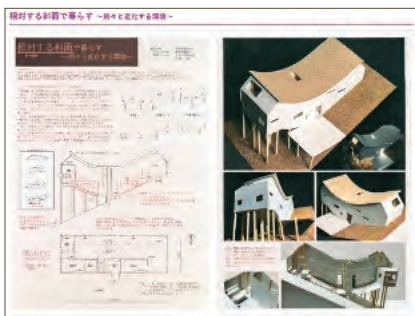
02 「第4回POLUS木造住宅 インターハイ」で最優秀賞を含む 4作品が入賞！

2025年5月20日（火）に開催された、全国の高校生（高専1～3年生を含む）を対象とした建築コンペ「第4回POLUS木造住宅インターハイ」（主催：ポラス株式会社）の審査において、本校の学生が最優秀賞、佳作、奨励賞を受賞しました。

テーマは「斜面を活かした家」。全国から寄せられた187作品の中から、設計部門において本校の4作品が入賞という快挙を達成しました。

■設計部門

- | | | | |
|-------------|--------------------------|--------|-------|
| 最優秀賞 | 『相対する斜面で暮らす ～刻々と変化する環境～』 | 建築学科2年 | 角地さん |
| 佳作 | 『やまみちを現す家』 | 建築学科3年 | 甲斐さん |
| 奨励賞 | 『多視化の家』 | 建築学科2年 | 山毛利さん |
| | 『階段ハウス』 | 建築学科3年 | 西野さん |



03 羽咋市との連携協定を締結 (令和7年6月20日)

2025年6月20日（金）、本校は羽咋市と連携協定を締結しました。本協定は、スマートシティの実現および地域のデジタル化推進を目的とし、相互の知見と資源を活かしながら連携・協力を図るものです。

締結式は羽咋市役所で執り行われ、羽咋市の岸市長と本校の富田校長が協定書に署名しました。式では、本校のこれまでの取り組みが紹介されるとともに、今後の連携に向けた期待や意気込みが双方から述べられました。

今後は本協定に基づき、地域社会の持続的な発展に寄与するため、さらに連携を深めてまいります。



04 機械実習工場前広場の名称 「テクノパレット」に決定！

2025年10月6日（月）、機械実習工場前広場の名称公募における受賞者の表彰式を開催しました。

この広場は、建築学科の学生が設計に参加し、教育・交流・憩いの場として活用されることを目的に整備されたコンクリート舗装のスペースです。より多くの方々に親しまれる場所となるよう、2025年7月18日（金）から8月29日（金）までの期間、本校学生を対象に名称を募集しました。



厳正な審査の結果、全82件の応募の中から「テクノパレット」が大賞に選ばれました。

表彰式当日は、大賞および優秀賞に選ばれた学生の紹介とともに、富田校長より表彰状が授与されました。

今後、この広場「テクノパレット」は、学生の成果物展示やイベント開催、さらには休憩スペースとして、学内外の交流を促進する場として活用される予定です。

＝審査結果＝

- | | | | |
|------|-----------|-----------|----------|
| ■大賞 | 「テクノパレット」 | 機械工学科5年 | 桑島 春人さん |
| ■優秀賞 | 「梅の木ひろば」 | 建築学科5年 | 門田 啓矢さん |
| | 「テクノスクエア」 | 機械工学科5年 | 奥野 陽斗さん |
| | | 機械工学科4年 | 佐野 慎哉さん |
| | | 機械工学科4年 | 山田 菜々美さん |
| | | 環境都市工学科4年 | 吉田 蒼人さん |



05 津幡町防災総合訓練に参加

2025年10月12日（日）、環境都市工学科の大橋慶介教授と学生5名が「令和7年度（第28回）津幡町防災総合訓練」に参加しました。

津幡町からの協力依頼を受け、本校が2023年より設置を進めている「まちなかハザード標識」に関する展示を実施しました。この標識は、環境都市工学科の学生たちが考案したもので、災害時に避難場所をわかりやすく示し、迅速な避難に活用してもらうことを目的としています。展示では、標識の活用方法を紹介するとともに、今後の設置活動への協力を呼びかけました。

当日は、地域住民や町議会議員の皆さまから本活動に対し温かい評価をいただき、参加した学生たちは、自らの取り組みが社会に役立つことを実感しました。小さな活動でも継続することで、地域への貢献につながることを改めて学ぶ貴重な機会となりました。



07 令和7年度 2級土木施工管理技術検定（第一次検定）3年生3名が全員合格！

2025年10月26日（日）に実施された「令和7年度2級土木施工管理技術検定（第一次検定）」において、本校 環境都市工学科3年生の3名が受験し、全員が見事合格しました。これにより、3名は国家資格「2級土木施工管理技士補」を取得しました。

今回合格した学生たちは、3年生という早い段階から自ら高い目標を掲げ、放課後や休日を活用して自主的な勉強に取り組んできました。その努力と挑戦が今回の成果につながったものです。

本校では今後も、学生の主体的な学びと資格取得への挑戦を積極的に支援してまいります。

■令和7年度「2級土木施工管理技術検定（第一次検定）」合格者

環境都市工学科3年

上杉 郁仁さん、呉山 優太さん、吉田 泰人さん



08 川田工業株式会社様の「くほくぎん」寄贈型SDGs私募債の発行に伴う寄附目録贈呈式を挙

川田工業株式会社様が株式会社北陸銀行の「くほくぎん」寄贈型SDGs私募債」を発行されたことに伴い、本校へ多大なるご寄附を賜りました。これを受け、2025年11月5日（水）、石川工業高等専門学校にて寄附目録贈呈式を執り行いました。

贈呈式には、川田工業株式会社 代表取締役社長の川田 忠裕 様、株式会社北陸銀行 常務執行役員 石川地区事業部本部長の森田 勝也 様にご臨席いただき、本校からは、富田 大志 校長が出席いたしました。

式典では、開会に続き、森田様および川田様より、私募債発行の趣旨や地域社会への貢献、未来を担う高専教育への期待など、温かいお言葉を頂戴しました。

その後、森田様より寄贈状が、川田様よりご寄附の目録が本校の富田校長へ贈呈されました。続いて、本校より感謝の意を込めて、富田校長から川田工業株式会社様および株式会社北陸銀行様へ感謝状を贈呈いたしました。

最後に、富田校長は受贈の挨拶として、深い感謝の意を述べるとともに、「いただいたご寄附は、学生の教育研究環境のさらなる充実のために大切に活用させていただきます。今回のご支援を励みとし、地域産業の発展に貢献できる技術者育成に、より一層努めてまいります。」と決意を述べました。

06 タイ高専(KOSEN-KMITL)と 学術交流に関するMoU締結

本校は、2025年10月16日、タイ高専（KOSEN-KMITL：King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang）と学術交流協定（MoU）を締結しました。

本協定は、教職員および学生の交流をはじめ、相互の関心分野に関する情報・学術資料の共有、共同研究や合同シンポジウム、交流講義の実施などを通じて、両校の教育・学術・研究活動の発展を図ることを目的としています。

今回の協定締結により、今後さらに両校の連携が深まり、より一層の発展が期待されます。





[校章の由来]

「石川高専」であることを明確に打ち出したもの、というアピール性に眼目において「高専」の文字を「石」と「川」で両側から円形に囲み、創造と協調の精神が生きたわかりやすいものにした。

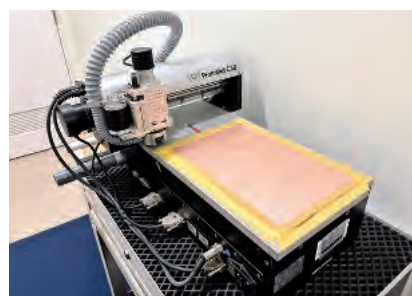
(当時 金沢美大教授であった 故 板坂辰治先生のデザイン)

石川高専のたからもの Vol.31

基板加工機

電子情報工学科 山田 健二

2004年(平成16年)に基板加工機が電子情報工科学科学生実験室に設置されました。当時、電子回路を半田付けで作る場合は無数に穴のあるユニバーサル基板を利用していました。電子部品を差し込んで直ぐに半田付けできるので簡単そうですが、それらの部品同士をつなぐ配線の半田付けは大変複雑で失敗も多く時間がかかりました。エッチングによって自作プリント基板を作る方法もありますが、廃液処理や作業工程に時間がかかります。本校に初めて導入された基板加工機は、あらかじめ銅メッキした板の表面を専用ドリルで削り、穴を開け、外形を切り取る作業工程で製作できます。学生実験の回路基板や卒業研究、専攻科の創造工学演習、ロボットコンテスト用の回路基板作成、そして中学生向け公開講座の電子工作用キットの製作など多くの学生や教員が利用してきました。現在は保管されている状態で、後に導入された基板加工機が利用されています。



基板加工機：(株) LPKF 社製 C30

随 想

久しぶりの紀友祭

同窓会会長 中井 隆一

昨年11月より石川高専同窓会会長をさせていただき事になりました機械工学科 第9回生の中井です。

同窓生との関わりは、長い年月が経っても変わらないかけがえない宝ものです。

私自身も、高専時代に経験した紀友祭での思い出や様々な出来事が人生の大切な糧となっており、同窓会はその思い出の架け橋となっています。

先日11月1日(土)久しぶりに石川高専の学園祭である紀友祭を訪問しました。同窓会として懐かしい写真展が開催され当時を思い出して、感慨に耽ってきました。技術の進歩や社会の変化の中で、多くの環境が変わろうとも、仲間との友情が変わらないことに安らぎを覚えます。

在校生も社会で活躍する卒業生も取り巻く技術的環境が嵐のように目まぐるしく変化し、暴風が吹き荒れているようにさえ感じているのではないのでしょうか。なかんずくAIの進化の影響は絶大で、いかに使いこなすかが大きな課題となっています。

また、世界に目を転ざると戦争の世紀と言われた20世紀の

反省に立って、平和で豊かな世紀になるはずだった21世紀はロシアによるウクライナ侵攻やパレスチナとイスラエルの戦闘長期化など紛争が後を絶たず暗い影を落とし、人類の愚かさに愕然とします。

異文化への恐れと対立ではなく、理解と協調がいかに大切か、自国だけが自分だけが平和で豊かには暮らせないことが自明のはずなのに。

一方で、コロナ禍を通じて、私たちは人との繋がりの大切さを改めて実感しました。

多くの卒業生が社会で活躍しておられ、また在校生もいくつものコンテストで優秀な成績を収められていることなど同窓会活動を通じて多く学び知ることができた今、石川高専卒業生としての誇りがより一層高まりました。

結びに、これまでの同窓会へのご支援とご協力に心から感謝申し上げますとともに、これからも皆様と共にこの絆を育んでいけることを楽しみにしています。

編集後記

本年度は、新たな広報の取り組みとして、Xおよびインスタグラムの本校公式 SNS アカウントを開設しました。これまでの紙媒体に加え、SNS を通じて本校の日常や取り組みをよりタイムリーに発信し、学生・保護者・地域の皆様に身近に感じていただける広報を目指しています。

さて、本校では能登半島地震からの復興も着実に進み、総合体育館の建設は順調に進行しています。来年度には、地震により被害を受けたキャンパス全体の再整備が実施され、復興が完了する予定です。新たな環境のもと、教育・研究活動がさらに充実していくことを期待しつつ、本校の歩みを引き続きお伝えしていきたいと思ひます。

編集：石川工業高等専門学校 広報委員会
発行：石川工業高等専門学校 総務課総務係

〒929-0392 石川県河北郡津幡町北中条タ1
[TEL]076-288-8000 [FAX]076-288-8014
[E-mail] s-somu@ishikawa-nct.ac.jp
[URL] https://www.ishikawa-nct.ac.jp/



公式
Instagram



公式X



古紙配合率80%再生紙と大豆油インキを使用し環境に優しい「水なし印刷」を採用しました。